

地域づくり加速化事業 支援をうけて

香春町 保険健康課
地域包括支援センター

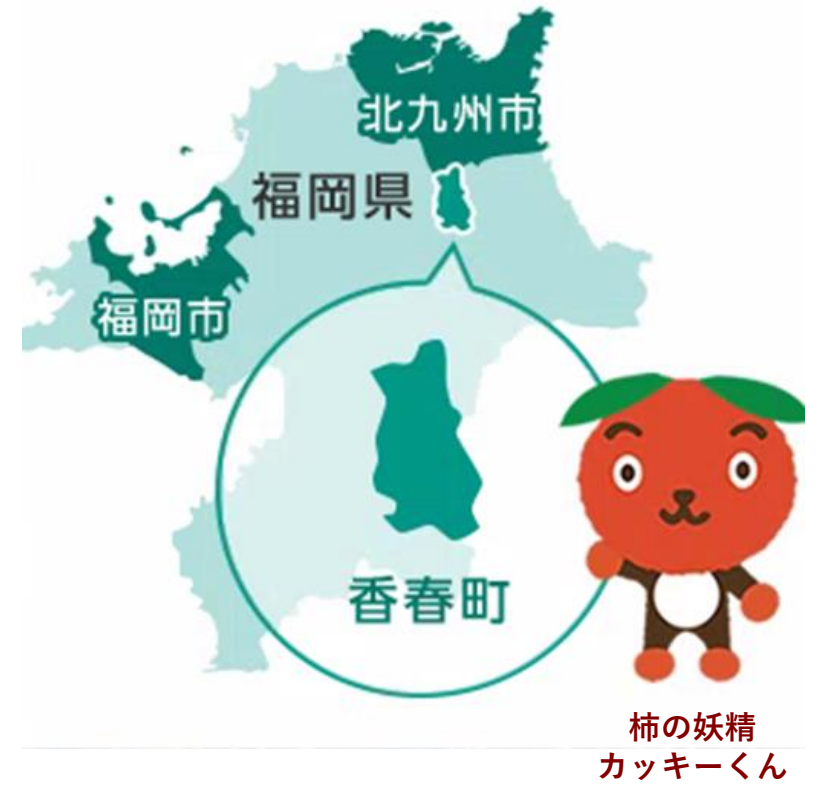
香春町の概要

福岡県の東北部に位置しており、東西6.45
キロメートル、南北10.6キロメートル、総
面積は44.5 km²

北九州市の南、田川地区の北部に位置し、
町の南西部を除いて、6割を山林が占める
自然豊かな町

特産品は干し柿、たけのこ、レンゲ米

筑豊ラーメン「山小屋」発祥の地



香春町の概要

- 総人口 : 10,099人 (R6年4月1日時点)
- 世帯数 : 5,368世帯
 - 高齢者一人世帯: 1,666世帯 (31%)
 - 高齢者のみの世帯: 2,509世帯 (47%)
- 65歳以上人口 : 4,287人
- 高齢化率 : 42.45% (福岡県内60市町村中 5位)
- 75歳以上人口 : 2,426人
- 後期高齢化率 : 24.02% (福岡県内60市町村中 5位)

香春町の概要

- 要支援・要介護認定者数:891人
- 要支援・要介護認定率 :21.1%
- 介護給付費 :330,239円(令和5年度)
- 介護保険料 :85,835円(県内1位)
- 日常生活圏域 :1圏域
- 地域包括支援センター :1カ所(直営)

直面している課題

①人口減少、高齢化の進行に伴う高齢者のみ世帯の増加

③介護給付費の増に伴う介護保険料の増加

⑤介護予防・日常生活総合事業のサービスA BCDがない

⑦生活支援整備・生活支援コーディネーターの活動が分からない

②要介護認定率が高い。とりわけ要支援者の割合が高い

④軽度の生活支援が必要な高齢者が増加

⑥地域資源・地域ボランティア（たすけあい）活動を把握していない

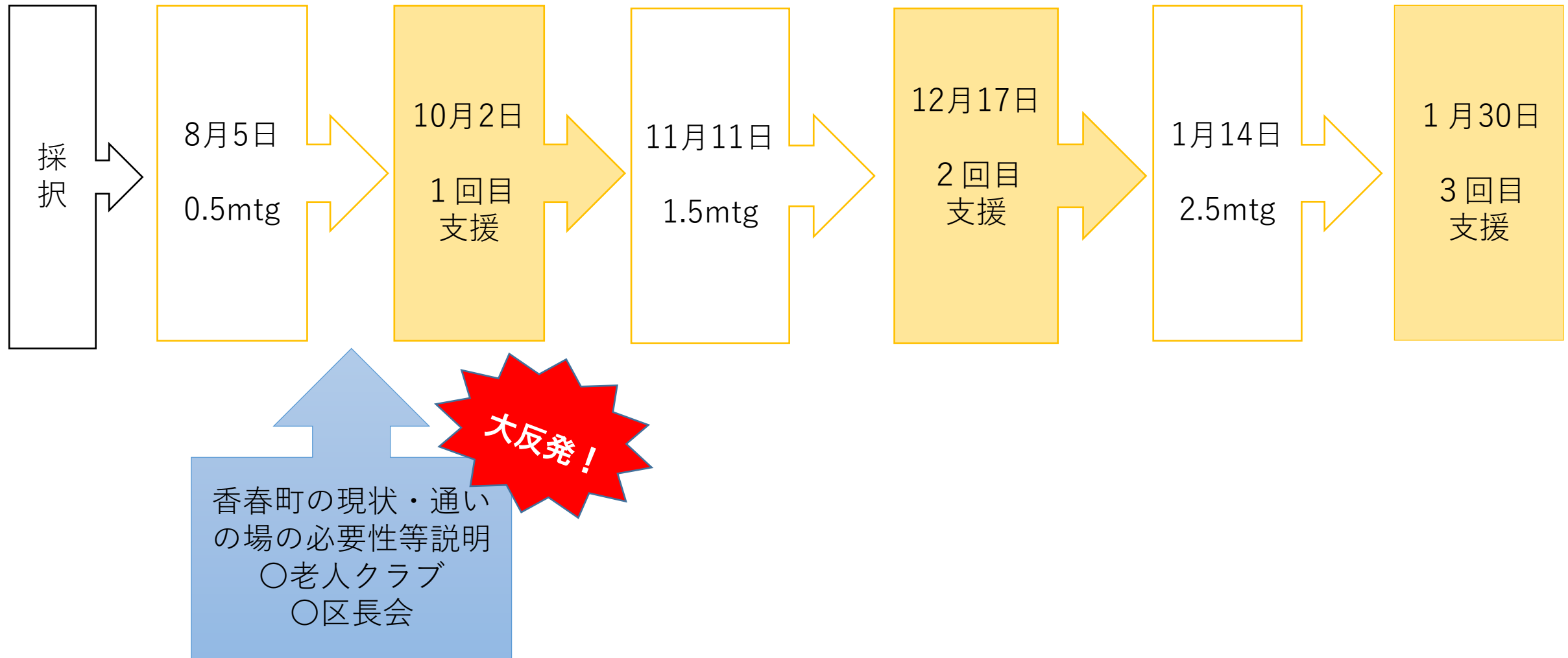
事業に申し込んだ理由

- 住民主体の生活支援サービスを作りたい（サービスB）

- 生活支援体制整備どうしたらいい？

- 生活支援コーディネーターはなにをする？

支援スケジュール



1 回目支援

【支援チーム】

- ・石井アドバイザー・宮田アドバイザー
- ・九州厚生局・福岡県地域包括ケア推進課
- ・福岡県介護保険広域連合事業課・日本能率協会総合研究所

【香春町】

- ・香春町社協（生活支援コーディネーター）
- ・町長・香春町役場まちづくり課・保険健康課・地域包括支援センター



【内容】

- ①地域づくり加速化事業の説明
(九州厚生局)
- ②香春町の現状と課題(香春町)
- ③町長との意見交換
- ④アドバイザーによる講義
 - なぜ生活支援体制整備事業が必要なのか
 - 住民主体の支え合い活動
- ⑤作戦会議(今後の支援内容)



気づき・取り組み

住民主体の生活支援サービスも生活支援体制整備も「地域づくり」の一環だ！



- 行政は地域がやりたいことを応援するという姿勢が大切
- 短期間で結果はでない（長い目で）
- 香春町には地域運営組織がある！



地域運営組織のことをもっと知ろう！

採銅所地域コミュニティ協議会と意見交換
参加者：香春町社協（SC）・まちづくり課・保険健康課・包括

- ・それぞれの取組について情報共有
- ・今後の連携内容検討（定期連絡会）

2回目支援

【支援チーム】

- ・石井アドバイザー・宮田アドバイザー
- ・九州厚生局・福岡県地域包括ケア推進課
- ・福岡県介護保険広域連合事業課
- ・日本能率協会総合研究所

【香春町】

- ・香春町社協（生活支援コーディネーター）
- ・香春町役場まちづくり課
- ・保険健康課・地域包括支援センター

【内容】

- ①香春町の地域運営組織について知る
（まちづくり課）
- ②意見交換（地域運営組織、生活支援
コーディネーターの連携について）
- ③作戦会議（今後の支援内容）

一人一人が地域の主役

地域住民の主体性を引き出す 地域づくり



香春町役場

地域つながり係

令和6年12月17日

地域運営組織設立の経緯

- 令和2年2月策定の総合戦略で4つの旧小学校区域に地域運営組織を形成する基本目標を設定
- 令和3年4月に町内4小学校2中学校を1つの義務教育学校に再編
- 令和4年1月に旧採銅所小学校区に地域運営組織が設立
- 令和5年12月に旧勾金小学校区に地域運営組織準備会が設立
- 令和6年10月に旧中津原小学校区に地域運営組織設立準備会が設立

まちづくり課が進める「住民主体の地域づくり」

「対話型 ワークショップ」の実施

小さな拠点づくり
地域運営組織の設立支援

コミュニティ協議会の運営／伴走支援

気づき・取り組み

高齢者行政の目的は「高齢者が安心して暮らすこと」
地域運営組織の目的は「地域のみんなが楽しく暮らすこと」



目指すかたちは？（高齢者行政の目線）

第2層の生活支援コーディネーターを地域自治組織に配置したい
日常生活圏域を現在の1圏域から旧小学校区単位の4圏域に変更したい



目指すかたちは？（地域運営組織の目線）

地域をみんなでつくっていこう！
自然を活かした持続可能な地域にしていこう！



気づき・取り組みたいこと



高齢者行政と地域運営組織

キーワードは「住民の主体性」
地域運営組織と高齢者行政と社会福祉協議会の「人と人のつながり」を大切にしよう！



地域自治組織活動のお手伝いをしよう

お手伝いできることをみんなで考えよう！
まずは健康づくり分野で試してみよう！



加速化事業の成果は？

まずは高齢者行政の思いとしてのロードマップを作成しよう！
作成にあたっては地域運営組織の想いを大切にしよう！

2回目支援を終えて 採銅所地域コミュニティ協議会と協議

①採銅所コミュニティ協議会の「採銅所地域づくり夢プラン」のアクションプランにおける高齢者部門の連携協議

- ・地域内での健康相談
- ・高齢者見守り
- ・災害時連携

②住民アンケートの実施

地域住民の方の困りごと等について今後の活動の参考とするためのアンケートを実施したい

- ・方法や内容、費用等について困っている

3回目支援でアドバイザーとの意見交換を提案

3回目支援

【地域運営組織】

「採銅所地域コミュニティ協議会」

【支援チーム】

- ・石井アドバイザー・宮田アドバイザー
- ・九州厚生局・福岡県
- ・福岡県介護保険広域連合

【香春町】

- ・香春町社協（生活支援コーディネーター）
- ・香春町役場まちづくり課
- ・保険健康課・地域包括支援センター

【内容】

採銅所コミュニティ協議会にて開催

①アドバイザーによる講演

- ・地域づくりと地域包括ケア
- ・生活実態調査（ニーズ調査）から見えてきた
これからの活動について

②意見交換会

③振り返り、ロードマップ作成

3回目支援



採銅所地域コミュニティ協議会
の今後の活動の参考となるよう
な有意義な協議ができた



採銅所地域コミュニティ協議会の インスタグラムで取り上げていただきました



ロードマップ

作成には至らなかったが。。

ロードマップはいろんな人が協働するためのツール！

目標は？

はじめは高齢者行政側の思いのみだった
地域運営組織の想いの実現をお手伝いすることを目標としよう！



考え方は？

やっぱり「人と人のつながり」だ！
地域運営組織、社会福祉協議会、行政のつながりを大切にしよう！





方法は？

まずは採銅所コミュニティ協議会と定期的に情報共有をしよう

協議会の事業計画作成にかかわっていこう

高齢者行政は協議会の想いに即応できるよう準備をしていこう

ゆくゆくは協議会と第2層生活支援コーディネーターについて協議しよう



成果は？

住民主体の地域づくりのなかで生活支援体制をみんなで創っていくことが共有された！

まとめ

地域づくり加速化事業に参加したことで

地域、関係機関・部署とつながることができた！

地域の取組、関係機関・部署の取組をすることができた！

地域との連携で地域づくりが加速化できた！

自主性を生かした活動が生まれるお手伝いをしていきたい！

ご清聴ありがとうございました



地域づくり加速化事業の支援を受けて

令和6年度 地域づくり加速化事業報告会

令和7年3月7日(金)

久留米市健康福祉部 長寿支援課・介護保険課

データから見る久留米市

項目 (各年10月1日)	令和3年	令和4年	令和5年
総人口	303,509	302,564	301,654
高齢者人口 (高齢化率)	83,856 (27.6%)	84,126 (27.8%)	84,266 (27.9%)
要介護認定率	19.5%	19.7%	19.8%



面積	229.96km ² (県内5位)
日常生活圏域	11
地域包括支援 センター数	11
地域コミュニティ単位	46校区
生活支援 コーディネーター	第一層 4名 第二層 11名
オレンジ協力隊登録団体	20



自治会 (R6.4月)	671
校区老人クラブ (R6.9月)	31
地域活動・ボランティア 活動の団体数 (R6.9月)	387
サロン (R6.9月)	308
通いの場数 (R6.3月)	474
認知症カフェ	19

久留米市健康福祉部の体制（地域支援事業関係）

久留米市保健所 健康推進課

健康増進チーム

- ・保健・健康づくり施策
- ・保健指導、健康相談、健康診査及び各種検診ほか

難病・在宅医療チーム

- ・在宅医療に関する企画及び調整
- ・小児慢性特定疾病及び指定難病患者の生活支援 ほか

久留米市保健所 地域保健課

- ・地域保健に係る企画、調整及び実施に関すること
- ・保健指導、健康相談及び健康教室に関すること ほか

地域福祉課

- ・地域福祉に関すること
- ・社会福祉協議会に関すること
- ・生活支援体制整備事業 ほか

長寿支援課

介護予防生きがい支援チーム

- ・高齢者の生きがい対策
- ・老人クラブ運営
- ・介護予防事業の実施
- ・認知症施策の推進 ほか

相談支援チーム

- ・地域包括支援センター管理業務
- ・権利擁護
- ・在宅生活の支援 ほか

計画庶務チーム

- ・社会福祉法人の指定監査
- ・高齢者福祉計画作成 ほか

介護保険課

育成支援チーム

- ・介護サービス事業者の指定・指導
監督
- ・給付費の適正化 ほか

認定チーム

- ・介護認定事務 ほか

保険料チーム

- ・介護保険料 ほか

計画給付チーム

- ・介護給付の事務 ほか

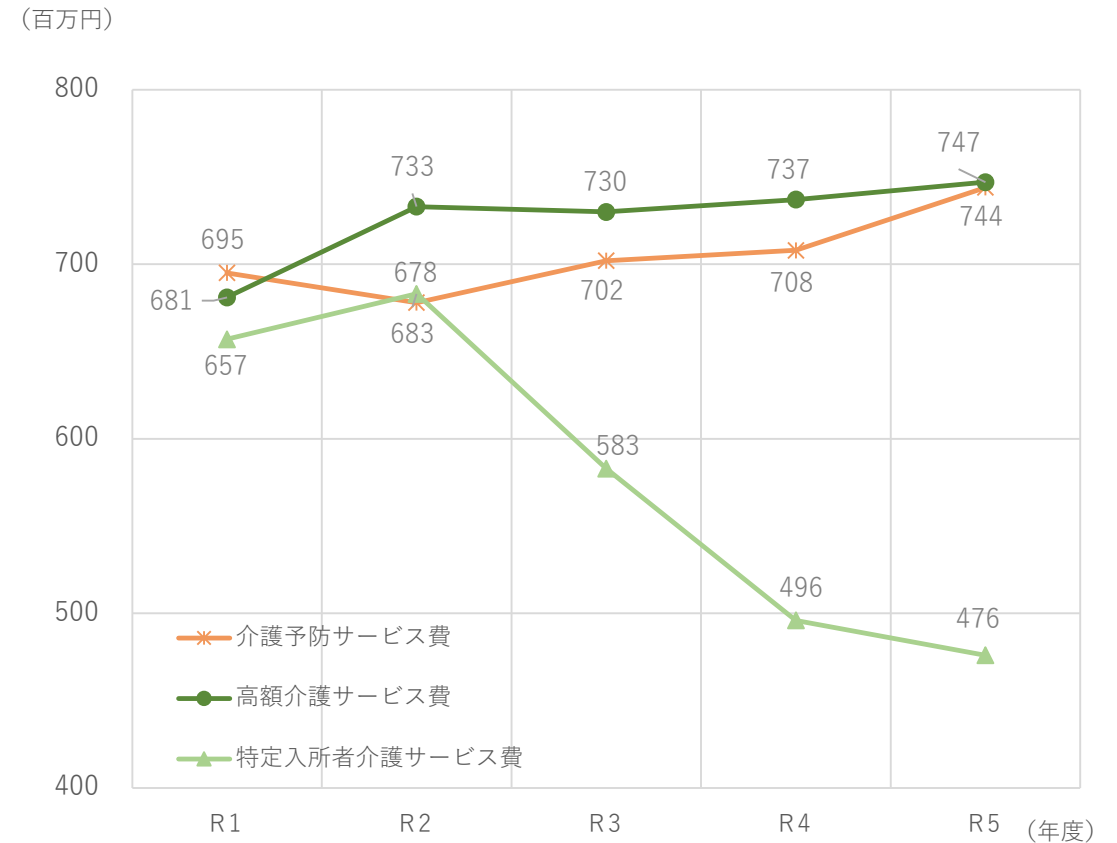
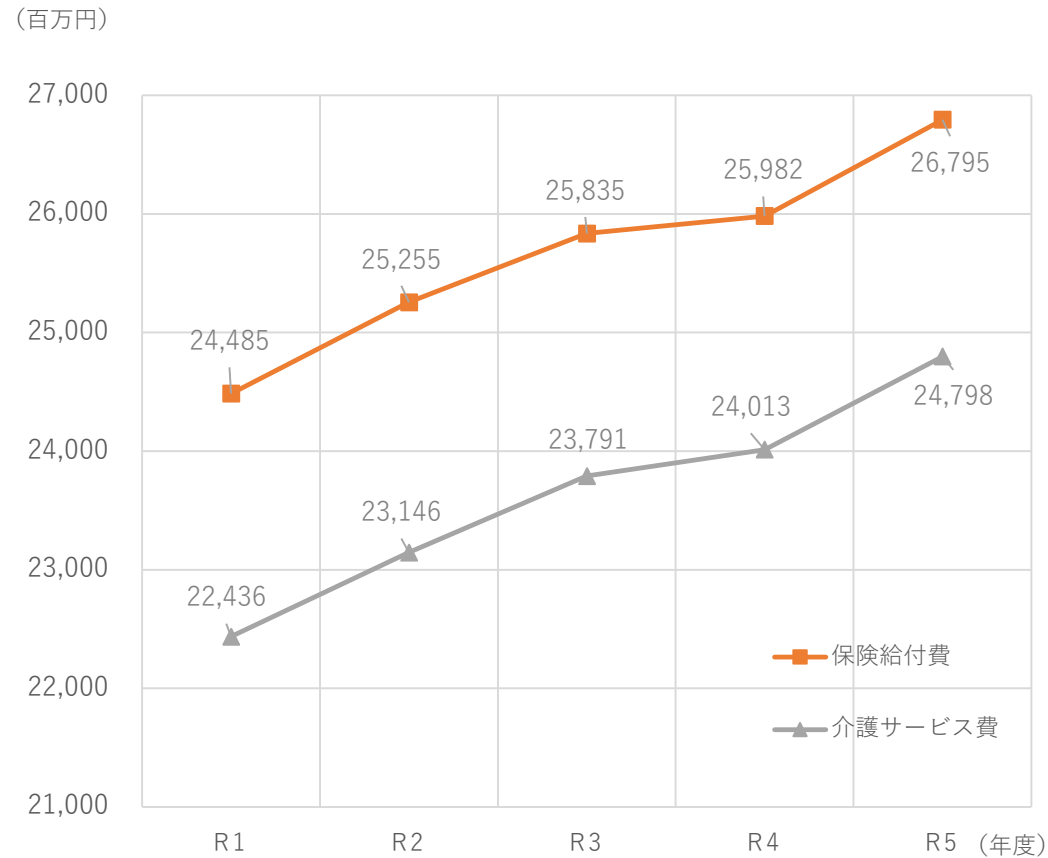
黄色枠：市保健所
オレンジ枠：市庁舎

久留米市の総合事業実施状況（令和6年4月1日現在）

所管課	サービス類型	訪問型		通所型	
介護保険課	従来相当	○	開始時期：平成28年3月～	○	開始時期：平成28年3月～
			事業所数：82箇所（指定）		事業所数：87箇所（指定）
	基準緩和（A型）	○	開始時期：平成29年4月～	○	開始時期：平成29年4月～
			事業所数：82箇所（指定）		事業所数：83箇所（指定）
長寿支援課	住民主体（B型） ◆住民主体による支援	×	開始時期：－	○	開始時期：平成30年4月～
			事業所数：－		団体数：0団体
	短期集中（C型） ◆短期間で行う支援	○	開始時期：平成30年4月～	○	開始時期：基準緩和（A型）として実施
			事業所数：7箇所（委託）		事業所数：0箇所
	移動支援（D型）	×	開始時期：－		
			事業所数：－		

久留米市の現状・課題（介護給付費等データ分析結果）

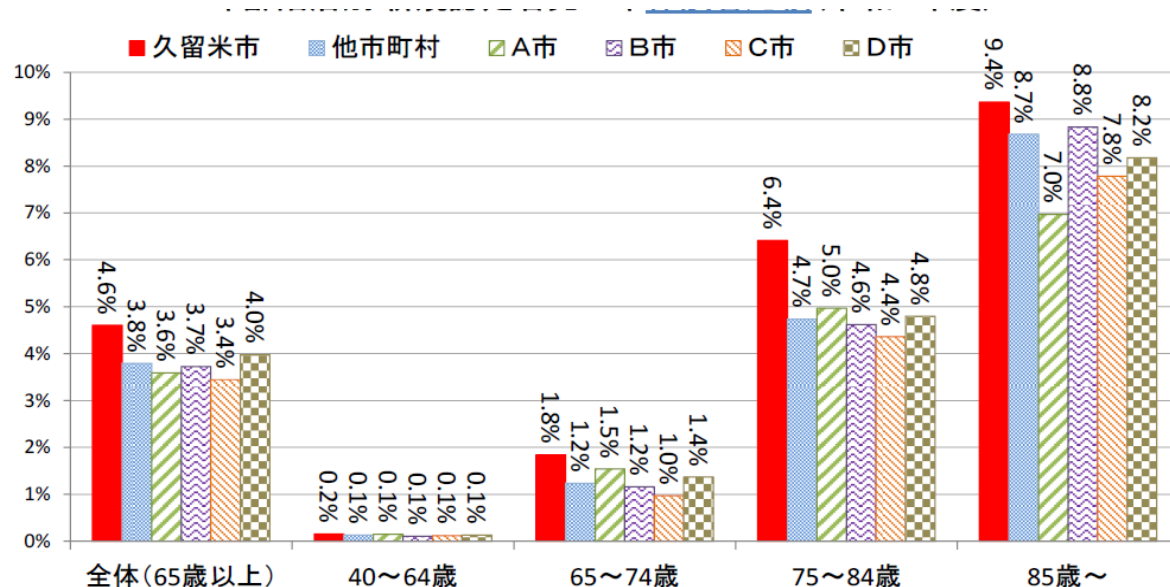
介護給付費の推移（R1～R5）



久留米市の現状・課題（介護給付費等データ分析結果）

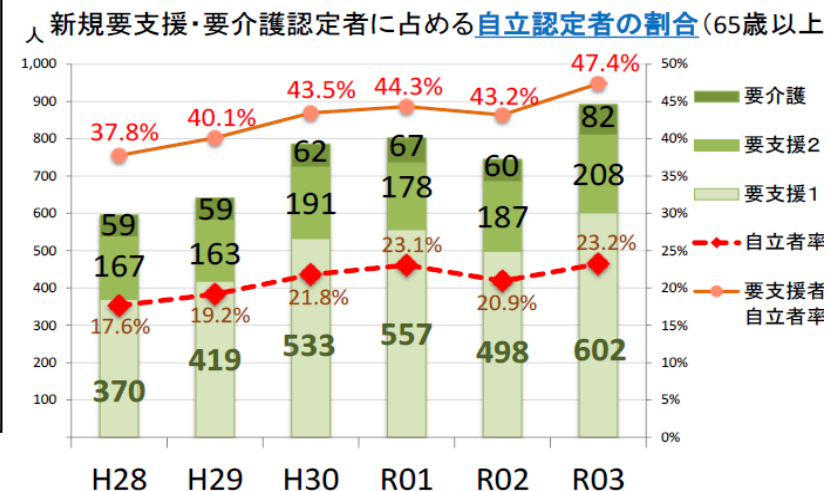
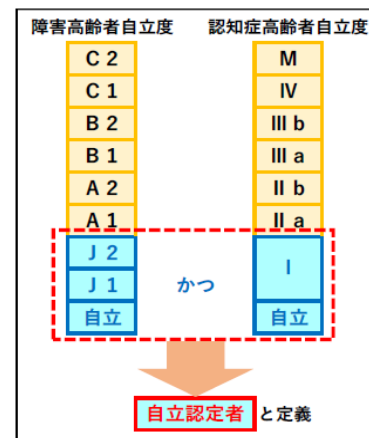
【出典】 令和4年度 データから見る介護予防、自立支援・重症化防止に関する研修会資料

他市と比較した新規認定率の高さ



いずれの年齢段階においても、他自治体よりも年齢別新規認定率が高く、特に75～84歳の年齢段階層でかなり高い

新規認定者に占める自立認定者の割合



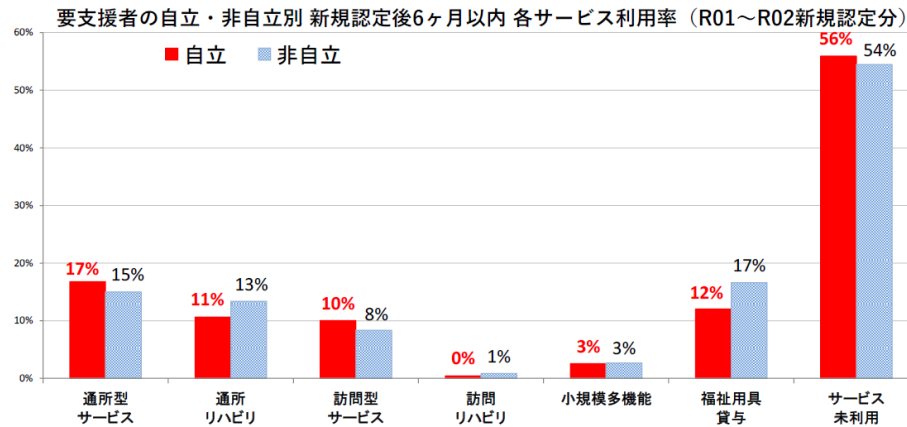
令和3年度は、新規認定者の23.2%が自立認定者である。他市町村では15%程度であるため、本市は他市町村の割合より高い

要支援・要介護認定を先送りできるような介護予防や、虚弱な状態から自立状態に回復できる取り組みの推進が必要

久留米市の現状・課題（介護給付費等データ分析結果）

【出典】令和4年度 データから見る介護予防、自立支援・重症化防止に関する研修会資料

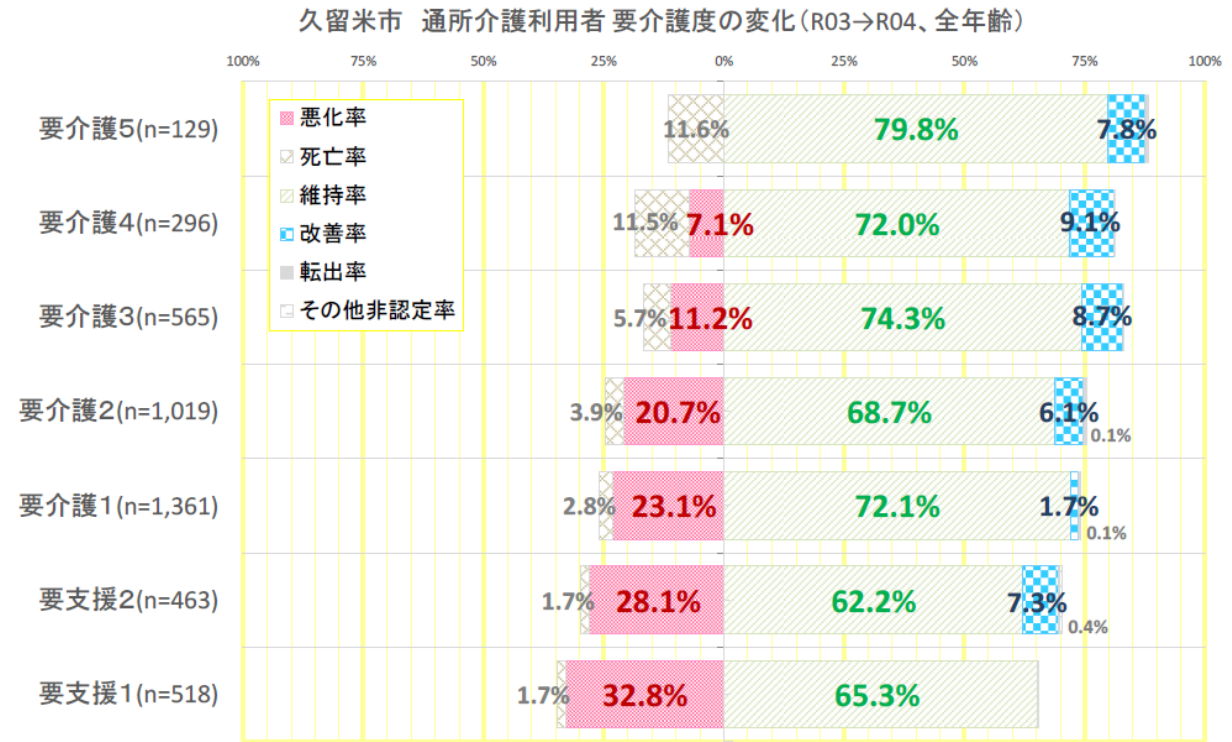
サービスを受けていない新規認定者



新規認定後6ヶ月以内のサービス未利用率は、自立認定者で56%、非自立認定者で54%である

通所系サービス利用者の介護度の悪化率

○通所介護を年度内に6ヶ月以上利用した認定者に限定して、介護度の変化を集計したもの。
○（通所系サービス利用者＝通所介護利用者＋通所リハビリ利用者）通所介護利用者に限定しても、要支援Ⅰの悪化率が最も高く、要支援Ⅰ認定者の約3割が翌年度には悪化している。



お守り認定やサービス利用者の悪化など、このままの状況が続けていくと、必要な方にサービスを提供することが困難に

当初の課題認識と伴走支援の参加動機

久留米市の課題

- 介護度別の新規認定者のうち、要支援者Ⅰ～要介護Ⅰの軽度な認定者が大半
 - 介護給付費の増加が著しい
 - 通所系サービス利用者の悪化率が高い
 - 介護保険制度に対する市民や医療機関への周知不足
 - 関係課・関係機関との連携不足
- 等々

伴走支援の参加動機

令和5年度から、総合事業見直しワーキングを立ち上げているが、全く前進しない。
何から取り組めばいいのか…
自立支援・重度化防止を推進するため、**通所Cの再構築**が必要だが、
関係課・関係機関を巻き込んでいくために、どうしたらいいのか…
前に進めるために助言をいただきたい！

I 回目現地支援

0.5

0.5mtg (R6.8.29)

久留米市から課題説明

➡ 通所Cを見直すなら、何のために通所Cをやるのか、関係者とともに話し合いながら進めることが必要とのアドバイスを受け、I回目現地支援は庁内連携のための会議に決定

1

第I回現地支援
(R6.10.3)

【支援内容】

- 「庁内での現状と課題の共有」
参加者：庁内（地域福祉課・健康推進課・地域保健課）、市社会福祉協議会
支援チーム（九州厚生局・福岡県・AD）
- 「取組内容について戦略会議」

包括支援センターへの働きかけが弱く、欠席となってしまった。
必要な協議が進まなかった…

しゅん



1回目現地支援を受けて

得られたこと

サービスC再構築を
主軸とする総合事業
見直しの方向性が
定まった!

総合事業見直しは
待ったなし!と
強い動機づけに
なった!

本市には、たくさん
の社会資源があるこ
とがわかった!連携
の必要性を再認識

経験豊富なADの
支援で通所Cは、
できそう!
(なんとなく自信が
ついた)



関係課から意見を
もらったが、次にどう
活かそう?

通所Cを再構築した
だけでは、ダメそう...

総合事業のキーとなる
包括職員の参加がな
かったことで、ふんわり
と終わってしまった...

もっと前進しないとい
けないけど、簡単には
進まないな...

感じたこと



モヤ
モヤ

2回目現地支援

1.5

1.5mtg (R6.10.18)

①ケアマネジメント
②卒業後の受け皿
③自立意識の啓発
に課題との意見を
いただきました

総合事業見直しのためには、包括職員の参加はマスト！
参加を再依頼するとともに、総合事業の現状と課題について各圏域の包括職員に
現地に赴いてヒアリングを行うことに！

2

第2回現地支援
(R6.11.8)

【支援内容】

- ・ ヒアリング結果を踏まえて現状と課題を整理し、意見交換を実施
⇒住民や医療機関へ自立への周知啓発がとにかく必要
参加者：包括職員（2名）・庁内（地域福祉課・健康福祉部総務・長寿支援課・介護保険課）
支援チーム（九州厚生局・福岡県・AD）
- ・ 「取組内容について戦略会議」
⇒午前中に出てきた課題に対し、解決方法について検討
市民向け普及啓発の手法を検討 等

Re
スタート



2回目現地支援を受けて

得られたこと

- 市民や医療機関等の自立に向けて意識を変えることが必要：意識づくりの必要性
- 包括からの意見で、課題認識が深まったように、事業所・CMからも現状・課題を聞くことが重要
- 通所Cの対象者像を整理しないと、サービス利用につながらない：要支援者分析を開始！
- 通所Cを行うためには入口出口の構築が必要：関係課等の協力が必須！
- 今までイメージできなかったが今後必要な取り組みが見えてきた：ロードマップ案作成
- 課題がわかり、解決の糸口が見えてきた！
- 解決のためには、とにかく規範的統合が必要！

あと1回しか支援を受けられないけど、解決しないといけない課題がたくさん！

しないといけないことが多い！グループに分かれて作業をしないと！

包括の意見は、どれも貴重で、課題の明確化につながった。一緒に取り組まないで！

介護予防ケアマネジメントや地域ケア会議などもっと検討が必要かも！

やばい

感じたこと



3回目現地支援

2.5

2.5mtg
(R6.12.24)

3回目の支援に向けての進捗確認

3回目は、CMや事業所と通所C再構築について規範的統合を図る内容に決定
それまでにロードマップ案・通所Cの概要・対象者像の整理を行うことに

3

第3回現地支援
(R7.2.5)

【支援内容】

午前 講話「地域づくりの加速化について」

- ・ ロードマップ案について説明・意見交換

参加者：包括職員（3名）・庁内（地域福祉課・健康福祉部総務・長寿支援課・介護保険課）

支援チーム（九州厚生局・福岡県・AD）

午後 講話「地域づくりと総合事業」

- ・ 市の現状と通所Cを主軸とした総合事業の目指す姿を説明・意見交換

参加者：介護支援専門員・通所サービス職員・介護予防支援センター職員・支援チーム

第1歩



3回目現地支援を受けて

得られたこと

- 要支援認定者を分析することで、改善可能性がある高齢者が多いことがわかり、通所Cの再構築の必要性を認識できた。そのことを関係機関に共有することができた：規範的統合
- ロードマップ案を提示したことで、総合事業の見直しのメンバーになってくれる関係者が見つかった
- CM・事業所の中には、地域づくりを圏域内で取り組んでいるところもあり、行政とのつながりを求めていることがわかった：仲間づくりの第一歩
- 要介護から要支援になったことで状態悪化につながる方がいる、地域資源情報が不足しているのでつながりが難しいといったリアルな意見を聞くことができた
- アドバイザーを始め、支援チームが本市のことを真剣に考えてくださり、前向きに検討を進めることができた。このような方々と知り合いになれたことが一番の収穫！

事業所やCMから厳しい意見が聞かれたが、そこを乗り越えないと！

先が長いけど、一緒に取り組んでくれそうな人が見つかった！

課題は今後も生まれる。支援チームの皆さんとこれからもつながれたら…

今回の支援でやっとスタートラインに立てた気がする

終わってしまった

感じたこと



伴走支援事業を受けて

仲間づくりとその拡大

ロードマップ作成により今後の取組が見える化

たくさんの課題・必要な取組みの発見

- 組織が多岐にわたることから庁内連携が難しかったが、加速化事業に参加していただいたことで、相談しやすくなり前に進むことにつながった。特に包括からの協力が得やすくなった。

- ロードマップを作成し、関係課・関係機関にも共有したことで、総合事業見直しに対する意欲の向上や役割分担が明確になった。

- 1年前はどこから手をつければいいかわからなかったが、今回の支援により、高齢者にとっての地域づくりの視点を意識するようになり、これまで見えていなかった課題に気づく機会になった。

次年度に向けて、見えてきた取り組み

- ・ 自立支援に向けた介護予防ケアマネジメントマニュアル作成
- ・ 地域ケア会議の抜本的な見直し
- ・ 新たな通所Cの構築、モデル事業の実施
- ・ 通所Cにつながるよう対象者像の基準づくり
- ・ 市民向け・医療機関向け啓発
- ・ 窓口案内マニュアル作成
- ・ 規範的統合を図るための定期的な庁内連携会議
- ・ 社会資源の整理 など

先進地視察に行くこと
にもつながり、やらな
いといけないことが
更に見えてきた！



総合事業の主旨は、地域のつながりの中で高齢者自身が多様なサービスを選択しながら生活していくこと。本市は、これまで介護保険サービスは充実していたが、多様なサービスが構築できてないため、地域で生活できる高齢者を地域から分断させていたのではないかと。

今回の支援をきっかけに要支援状態の方が元気になることを目指し、充実して豊かな地域での生活を送れるよう、見直していきたい。

石山アドバイザー・山内アドバイザー・支援チームの皆さま、
歩みが遅い久留米市が第一歩を踏み出せたのは皆さまのおかげです。本当にありがとうございました。

令和 6 年度地域づくり加速化事業報告会

～ 久留米市、香春町支援について【福岡県】～



福岡県マスコットキャラクター
「エコトン」

令和 7 年 3 月 7 日

福岡県 保健医療介護部 高齢者地域包括ケア推進課

福岡県の概要



【面積】 4,988 km² (R6.1)

【人口】 5,095,379人 (R6.1)

【世帯数】 2,544,108世帯 (R6.1)

【市町村】 60市町村 (29市29町2村)

【グルメ】



とんこつラーメン



もつ鍋



辛子明太子



うどん

【観光】



桜井二見ヶ浦・夫婦岩
(糸島市)



太宰府天満宮
(太宰府市)



門司港レトロ地区
(北九州市)



柳川川下り (柳川市)



筑後吉井白壁の町並み
(うきは市)



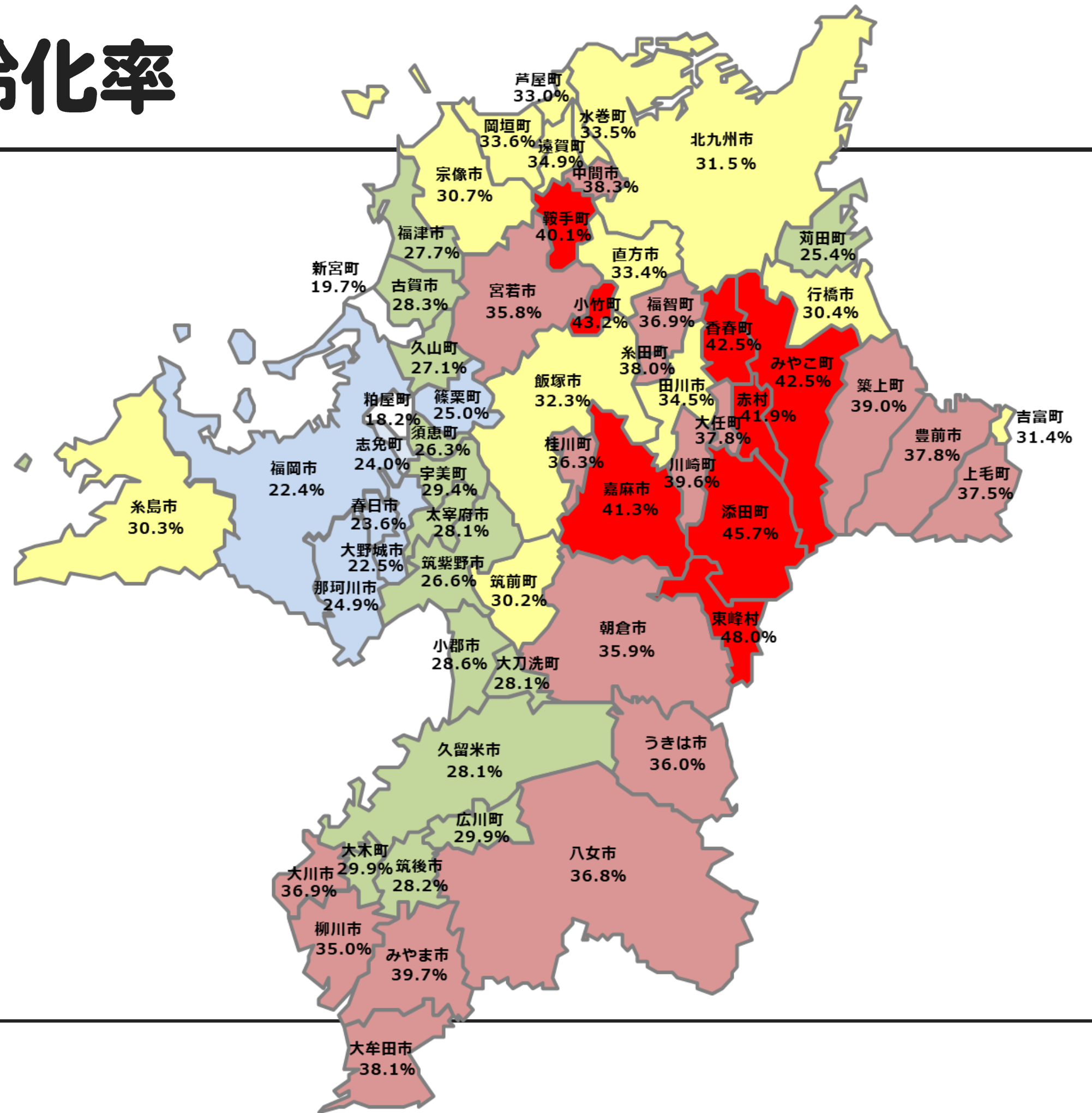
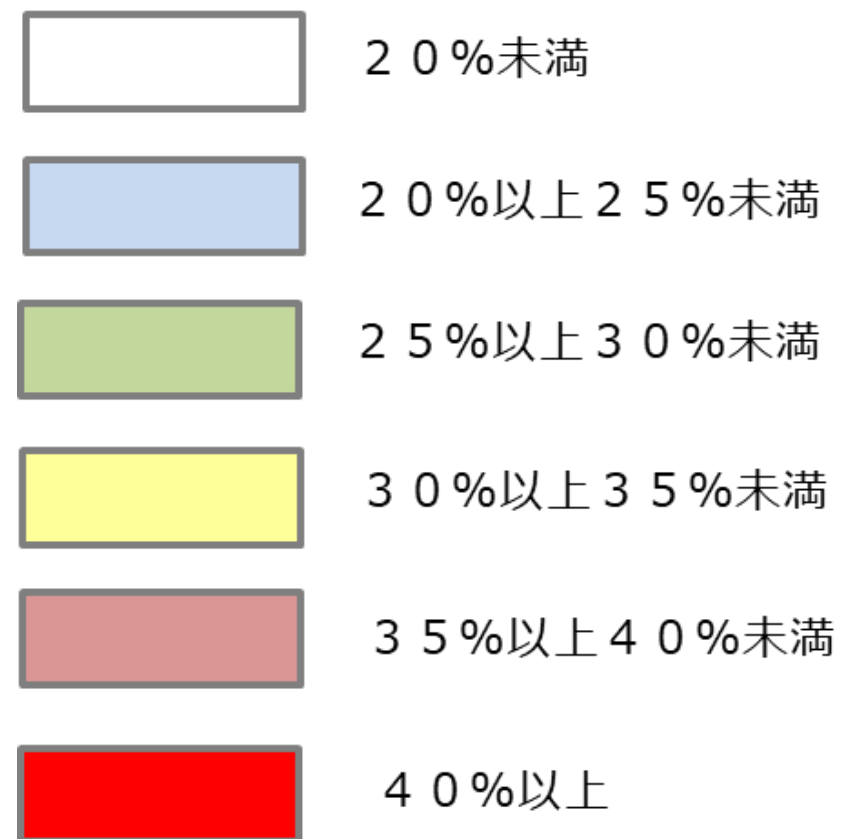
ことこと列車
(平成筑豊鉄道
)

福岡県内市町村の高齢化率

○県平均：28.1%（R6.4.1現在）

高齢化率が最も高い：東峰村（48.0%）

高齢化率が最も低い：粕屋町（18.2%）



久留米市支援



支援テーマ：通所サービスCの構築

8月7日 0.5次mtg

10月18日 1.5次mtg

12月24日 2.5次mtg

10月3日 第1回支援

- ・現状と課題の整理
- ・ADによる講義
- ・意見交換、戦略会議（担当業務と地域資源について）



参加者：AD、久留米市、社協、
厚生局、県

11月8日 第2回支援

- ・現状と課題の整理
- ・包括へのヒアリング結果の共有
- ・意見交換、戦略会議（総合事業を推進する上での課題と解決に向けた取組について）



参加者：AD、久留米市、包括支援
センター、厚生局、県

2月5日 第3回支援

- ・ADによる講義
- ・意見交換（ロードマップにおける各担当業務との連動について）
- ・意見交換（通所C構築について）



参加者：AD、久留米市、包括支援
センター、社協、通所事業所、居宅
介護支援事業所、介護予防支援セン
ター、厚生局、県

香春町支援



支援テーマ：生活支援体制整備事業（住民主体の地域づくり）

8月 5日 0.5次mtg

10月 2日 第1回支援

- ・現状と課題の整理
- ・ADによる講義
- ・意見交換、戦略会議（事業の方向性について）



参加者：AD、香春町、社協、介護保険広域連合、厚生局、県

11月 11日 1.5次mtg

12月 17日 第2回支援

- ・ADによる講義
- ・意見交換、戦略会議（まちづくり課との庁内連携）
- ・ロードマップ作成



参加者：AD、香春町、社協、介護保険広域連合、厚生局、県

1月 14日 2.5次mtg

1月 30日 第3回支援

- ・ADによる講義
- ・採銅所コミュニティ協議会との意見交換
- ・ロードマップ作成



参加者：AD、香春町、社協、採銅所地域コミュニティ協議会、介護保険広域連合、厚生局、県

久留米市支援を通じて



「自立支援のまち 久留米」を創る！ 市ワーキングメンバーの推進力に感動



久留米市の強み

- ・現状分析（給付費・認定者・サービス利用状況、地域の状況のデータ分析）が綿密に行われている。
- ・ワーキングメンバーが主体的に課題解決に向けて取り組んでおり、団結力と組織力の高さを感じた。
- ・メールでの相談や会議中の活発な議論から学ぼう・吸収しようとする姿勢、積極性を感じた。



気づき・学び

- ・事業は手段。最終的なゴールを見失わない。（ストーリーの構築）
- ・庁内連携、規範的統合の難しさと重要性。（対話を重ねる・ストーリーの共有）
- ・行政、住民、事業所、ケアマネ、医療機関…それぞれに意識改革が必要。
- ・地域づくりは「仲間づくり」。



これから

- ・事業開始に向けて、さらに庁内外との対話、協議をしていかれることと思う。
- ・「鉄は熱いうちに打て」で、ぜひこの熱量のまま、色々な人を巻き込んで取組を推進していただきたい。
- ・今後も研修や情報提供等のサポートはもちろん、身近な支援者として共に考え、バックアップしていきたい。

香春町支援を通じて



庁内外で連携づくりが加速化！ 町の一体感と地域愛を感じる支援



香春町の強み

- ・町全体で地域づくりを考える土壌がある。
- ・まちづくり課との庁内連携、採銅所地域コミュニティ協議会との連携により、情報の共有、規範的統合が進んだ。
- ・会議では「地域の自主性」を尊重する意見が多く、行政の押し付けにならないようにする、地域への思いが伝わった。



気づき・学び

- ・住民主体の地域づくりの道すじを学ばせていただいた。現状の課題解決のために行政が急いで体制を整備するのではなく、住民が自分ごととして考え、主体的な活動ができるよう待つことが大切。行政は一緒に課題を解決するパートナー。
- ・行政からの説得ではなく、住民同士が納得することで地域づくりが深化する。



これから

- ・これから、採銅所地域コミュニティから住民主体の生活支援のモデルを検討し、他地域へ波及させていくに当たって、長期的な目線で、地域と対話を重ねることが重要になることと思う。
- ・今後も支援チームの一員として、調整・情報提供等を通じて、香春町を応援していきたい。

久留米市・香春町のご担当者様、アドバイザーの先生方、
九州厚生局の皆様、日本能率協会総合研究所の皆様、
ありがとうございました。



KURUME



KAWARA



令和6年度 地域づくり加速化事業を受けて



令和7年3月 佐賀県玄海町福祉・介護課

●目次

・玄海町のご紹介	p.3
・伴走支援のスケジュール	p.6
・エントリーの経緯	p.8
・1回目現地支援に向けて	p.12
・2回目現地支援に向けて	p.26
・3回目現地支援に向けて	p.41
・今後の展望など	p.58

●玄海町のご紹介

●玄海町のご紹介

○玄海町浜野浦の棚田条例(平成29年条例第19号)

山々に降りそそいだ雨は、豊かな自然をつくり棚田をうるおす。

四季折々の表情を見せる浜野浦の棚田は、祖先から受け継いだ貴重な稲作文化であり、まさに日本の原風景である。

春の訪れとともに咲く黄色の菜の花、夏の日差しを受けて育った緑色の稲、初秋に実った黄金色の稲穂、秋に咲く赤色の彼岸花、冬にうっすらと雪化粧した姿など、浜野浦の棚田には美しい表情がある。

特に、水張りが終わり水田となる新緑の頃、暮れなずむ空を赤く染める夕日が、棚田の水面に反射し、描き出す風景は、多くの人々に癒しと感動をもたらしている。

浜野浦の棚田は、「日本の棚田百選」「22世紀に残す佐賀県遺産」「恋人の聖地」に認定され、先人たちの多大な労力と知恵により長い年月をかけ築き上げた生業の場であるだけでなく、訪れた人に安らぎを与えてくれる観光資源である。

この貴重な資源を後世に継承していくことは極めて重要であり、有効に活用していくことが、私たちに課せられた使命である。

このような認識のもと、私たちは、町民、関係者及び行政が一体となって魅力ある浜野浦の棚田を創造し、玄海町の誇りとして後世へと引き継いでいくために、この条例を定める。

smil Genkai MAP



面積 35.92km²

総人口(R7.1.31時点) 4,806人

世帯数 1,887世帯

高齢者人口
(65歳以上) 1,815人
(37.8%)

後期高齢者人口
(75歳以上) 934人
(19.4%)

日常生活圏域 1

地域包括支援
センター 直営 1
(地域ケア経験のある看護師 1、
社会福祉士 2)

要介護認定者数／
認定率 269人／14.8%

所在する事業所数 10事業所

●伴走支援のスケジュール

●伴走支援のスケジュール

1 全体の流れ

エントリーシートの提出(R6.4月)

0.5次ミーティング(R6.7.31)

1回目現地支援(R6.10.10)

1.5次ミーティング(R6.11.11)

庁内他課への依頼(R6.11月~12月)

2回目現地支援(R6.12.23)

2.5次ミーティング(R7.1.21)

2.75次ミーティング(R7.2.7)

3回目現地支援(R7.2.18)

●エントリーの経緯

●エントリーの経緯

1 応募動機など

- 第9期計画期間を通じて総合事業の充実や生活支援体制整備事業の促進が求められているが、**どのように進めればよいのか分からない**。
- 介護保険料基準額が佐賀県内で1番高い。
- 介護ロボット（腰装着型の歩行支援用）やeスポーツを導入したものの、利活用が限定的である。
- 通いの場は年々少しずつ増えているものの、このままでよいのか不安。
- 総合事業の事業構成（従前相当やA～D、一般介護予防事業も）が以前から特に変わっておらず、もっと検証を深めたいが**マンパワー不足**で取り組めていない。
- これまでも取り組んできてはいるが**手詰まり感を感じる**。 etc

●エントリーの経緯

2 課題と感じている分野

○介護予防・生活支援サービス事業

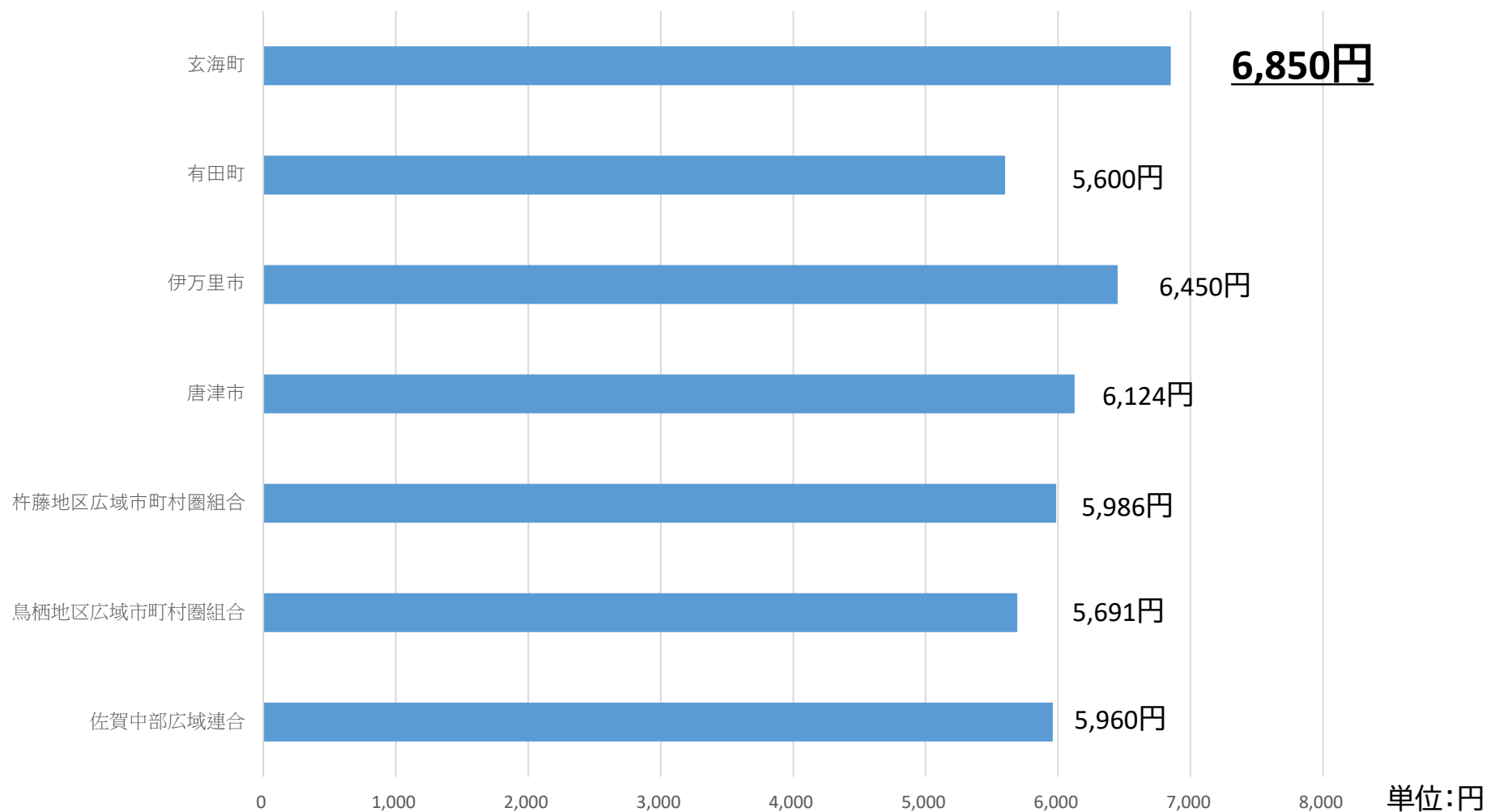
- ・多様なサービスは、通所型サービスの活動Aのみ。

○生活支援体制整備事業

- ・生活支援コーディネーターを直営包括の職員が兼務しており、活動量を十分に確保できていない。

●エントリーの経緯

3 【参考】介護保険料基準月額（令和6年度～令和8年度）の比較（佐賀県内）



●1回目現地支援に向けて

●1回目現地支援に向けて

1 0.5次ミーティング前

○現状や課題を整理（市町村の主観的变化シート（帳票1：事前シート）より）

- ・ 通いの場や通所型サービスAに限らず、男性の参加者が少ない。
- ・ 地域資源を整理できておらず、公的サービス以外の提案が困難。
- ・ 様々な関係者に関わってもらいながら方向性を決めたい。 etc

○既存の連携体制などを整理（市町村の自己評価シート（帳票7：支援開始時点）より）

- ・ 通いの場へのリハ職派遣、介護予防運動プログラムの開発（佐賀県長寿社会課）。

●1回目現地支援に向けて

2 0.5次ミーティング当日（令和6年7月31日）

○0.5次ミーティングの目的

- ・まずは関係者間で現状・課題の共有をし、目指す方向を確認する。
- ・そのうえで1回目の支援内容を検討・確定する。

○0.5次ミーティングの流れ

- ① 自己紹介
- ② 玄海町から帳票1について説明。
- ③ 帳票1の現状と課題や、この支援で取り組みたいこと等について、みんなで意見交換・共有しながら内容を深めていく。ある程度深まったら、1回目現地支援の内容について話し合う（玄海町の考え、支援チームの助言）。

⇒当日の内容（次第、時間割、参加者）、それまでにやるべきこと・準備物（それぞれの役割分担）など

○取り組みたいこと

- ・企画する段階から様々な関係者・機関を巻き込む。生活支援コーディネーターや認知症地域支援推進員の人探し。ゆっくり焦らずに進めたい。

●1回目現地支援に向けて

○質疑・意見交換

- ・他地域と比べて認定率は低いが、保険料基準額は佐賀県内で1番高い。
→要介護3以上の認定率が高いことや、施設サービス給付費の占める割合が高いため。
- ・状態が悪くなってきたら施設へという考えが根強く、在宅で暮らし続けるという選択肢をあまり取られない。ヘルパーに家に入ってもらってまで、介護を受けようという考えにならないのかな。
- ・庁内連携の状況については、区長会を担当する総務課など、お願いすれば区長さんたちにアプローチする協力はしてくれる。
- ・地域住民が求める姿について、現状で把握しているものはあるのか？
→もっと気軽に相談できる機会があったり早期に発見できたりなど、要介護に至るまでの対策の選択肢がたくさんあること。
- ・通いの場はどうなっているのか？
→公民館が会場。歩いてくる人、電動カートの人、軽トラの人など様々。
- ・通いの場で基本チェックリストを使用しているか？
→体力測定とセットで、後期高齢者の質問票をベースにしたものを使っている。

●1回目現地支援に向けて

○質疑・意見交換つづき

- ・ 個別の相談というより、地域課題をまとめたりアセスメントしたりするようなことを地域ごとにやっているか？→地域課題の抽出は十分にできていない。
- ・ 行政区の数は全部で27とのことだが、例えば地域でお祭りがあつたりする際に動く単位に置き換えると、何か所ぐらいか？
→小学校が1つに統合される前は4つの小学校区があつた。動きやすい単位をリサーチする。
- ・ **住民もケアマネも改善するイメージを持っていない。**この意識を変えることが非常に難しいが、変えていかなければいけない。それから例えば通いの場とか生活支援など社会参加に繋いでいく。
- ・ 町民の持つ強みは何か？→生涯現役は多い。
- ・ 生涯現役ということで、高齢になっても働いている人が多いのか？
→農業をしている方が多く、年齢に関係なく働いている。他の地域と比較はしたことはないが、高いのかもしれない。
- ・ 社会参画が介護予防になり、それが介護保険料につながっていることを説明して意識してもらうことが必要。

●1回目現地支援に向けて

○1回目支援の内容について

- ・社協の職員など町役場外の方とも共有したい。老人クラブ、シルバー人材センターや民生委員さんなどいずれは。
- ・同じ方向を向いていくことが重要なので、**まずはスモールステップでいきましょう。**
- ・外部の方々に知ってもらうことは非常にいいこと。それともう一つは庁内の関係部署が同じ方向を向いていくことが大事になる。例えば1回目支援について、午前は庁内での意見交換、午後は外部との意見交換としてはどうか。午後の参加者は例えば、社協、ケアマネ（居宅）、介護事業所、住民代表者などが考えられる。
- ・例えば生涯学習の担当課とか地域コミュニティの担当課ももしかしたら同じような課題を抱えていて、一緒に取り組むことによって各々が課題解決に進んでいくかもしれない。そのためには少し整理してから、社協や他の課にアプローチをかける方がいいのではないかな。
- ・現地支援の回数は3回と少ないので、少し初日の前半で、何を優先的に取り組むのか課題を整理する（庁内の方向性を出す）時間が必要ではないかな。
- ・近道をしない、急ぎすぎないとした場合、**1回目では課題整理まででもよい。**3回あるので、玄海町が望むペースで進めていただきたい。

1回目支援__令和6年10月10日(木曜日)

玄海町役場 第3・4会議室(3階)

9時30分から16時30分まで

●参加者 合計21名

(支援チーム)

原アドバイザー、山内アドバイザー、九州厚生局地域包括ケア推進課2名、佐賀県長寿社会課2名、事務局1名

(玄海町)

福祉・介護課5名、総務課1名

(介護事業者)午後のみ

玄海町社会福祉協議会6名、社会福祉法人天寿会2名

1回目支援__令和6年10月10日(木曜日)

1 プログラムの概要

【午前】

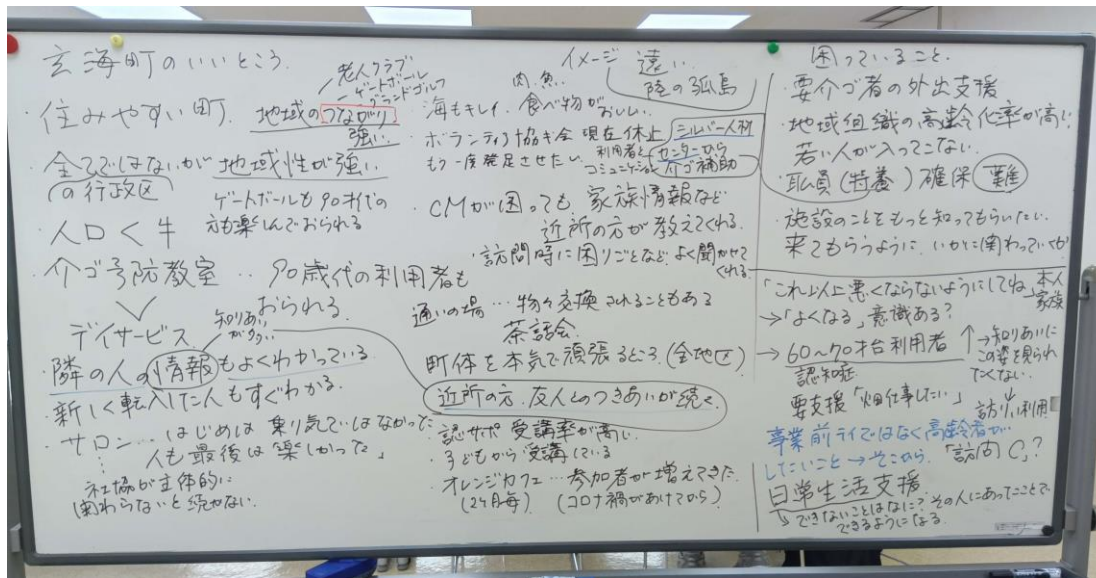
- 加速化事業の内容説明(九州厚生局)
- 町の現状と課題の説明(玄海町)
- 中間市の青空市場について等(原AD)、大津町の通いの場について等(山内AD)
- 対話・意見交換、庁内における課題のすり合わせ(全員)

【午後】

- 加速化事業の内容説明(九州厚生局)
- 町の現状と課題の説明(玄海町)
- 中間市の青空市場について等(原AD)、大津町の通いの場について等(山内AD)
- 対話・意見交換、町の考える課題と関係機関の考える課題の共有(全員)

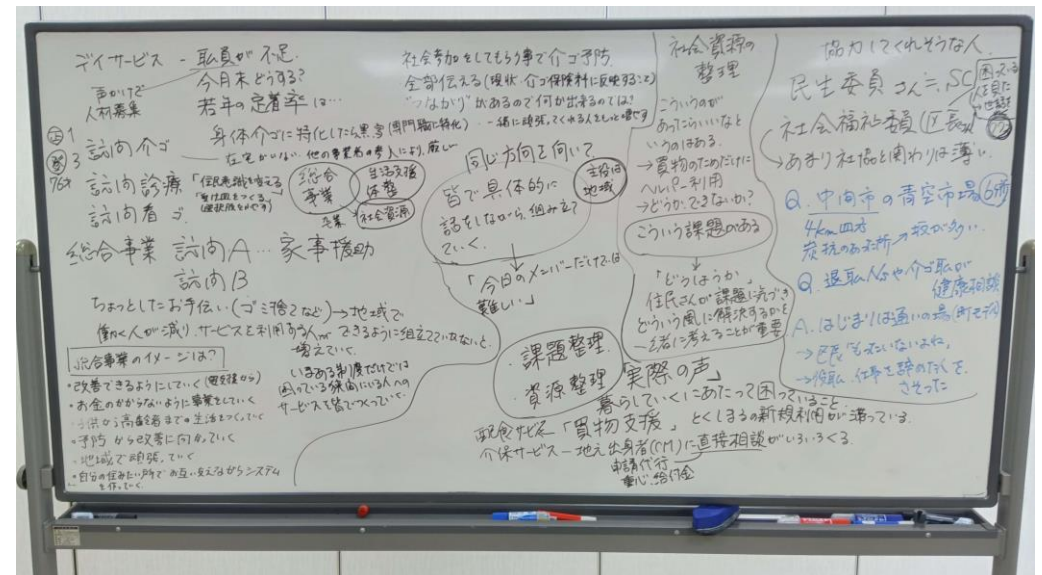
ホワイトボード①

会場全体



集合写真

ホワイトボード②



1回目支援__令和6年10月10日(木曜日)

2 新たな気づきや認識を深めたこと

- ・「改善」というイメージがこれまではほとんどなかった。現状維持できれば上出来としか思っていなかった。元気になることを諦めてしまう方が多いのでは。
- ・サービスCなどを利用して「卒業」という考え方。また卒業後の選択肢を用意する・増やすという考え方。
- ・庁内連携が不十分。既存の取組が必要な人に届いていない。届ける工夫や仕組みが足りない。
- ・現状をちゃんとそのまま外部に伝える必要性。全部開示する。
- ・つながりが強いところがすごく良い。自然と生活支援の体制ができている。ワクワクするしやれそうだという気持ちになった。
- ・町民体育大会などを本気でがんばるところが、まちの魅力。
- ・事業ありきではなく、高齢者がしたいことからスタートしなければならない。
- ・みんなで具体的に話しながら組み立てていく必要があるので、今日のメンバーだけでは難しい。
- ・あらためて加速化事業の目的として、玄海町が自走できる力をつけることというのを再認識した。

1回目支援__令和6年10月10日(木曜日)

- ・ 原ADの青空市場は、買い物支援・自己決定・筋力づくり・居場所づくり・安否確認など、多機能多目的。
- ・ 山内ADの通いの場は、地域の拠点・福祉の拠点（包括のランチ機能）。通いの場を充実させて、事業対象者にはこちらの利用を促す。
- ・ 通所Cは運動というが、栄養面もきちんと見極めが必要。
- ・ 通所Cも効果的だが、まずは意識からかもしれない。
- ・ 住民の方々は、必死になって頑張ろうという想いを抱えているのではないかと感じた。
- ・ 主催して続けるには心身の強さが必要。継続の難しさを日頃から感じている。
- ・ **すぐ進む取組ではないので、楽しみながら。**楽しむためにも、自分たちの知識・意識や気持ちの強さを持っていかないといけない。
- ・ それぞれの主体がそれぞれのために一緒にやっていくのであって、お手伝いではない。
- ・ 日常生活がよくならなければ意味がない。
- ・ 福岡県では民生委員が生活支援コーディネーターをしているところも多い。
- ・ **行政からこれが必要だろうというものを持って行っても続かない。**住民主体になるのは大変だが後が楽。

1回目支援__令和6年10月10日(木曜日)

3 今後取り組んでみたいこと

- ・データや動画は説得力が強いので、玄海町ならではのビフォーアフター動画を作り「改善」できるイメージを伝えたい（通いの場などの利用者ですでに成功体験と言える方もいる）。それを広げていき地域全体の意識変容へ。
- ・今すでにある人・物やすでにしている事業の強みを再確認・再発見して、それを認識している人の輪を広げたい。そのためのアプローチ方法を考えたい。
- ・必要な人に情報を届けるにあたり、効果がありそうな手段や工夫をみんなで話す（「取組を知っている人を増やす→改善を体験する人を増やす→意欲的な人を増やす」のサイクルを回したい）。
- ・（まさに在宅サービスの肝である）訪問型の充実。プロorボランティアのすみ分け。ボランティアに任せられる領域を広げたい。
- ・加速化事業を通して目指したいところ等を、町長と対話し理解を得る（トップダウンで庁内連携を進めやすくしたいため。総合計画≡高齢者福祉計画）。
- ・今はできる人員体制にないが、介護ロボット（歩行アシスト）の利活用を通いの場にも広げたい。
- ・今ある制度だけでは困っている、狭間にいる人への支援をみんなで作っていく。

1回目支援__令和6年10月10日(木曜日)

- ・合う合わないがあるので、資源を増やす。
- ・あくまでも目的はサービスではないという意識づけ。
- ・民間企業との連携（郵便局見守り、Aコープとくし丸 etc）
- ・もう一度、ボランティア連絡協議会を発足・復活させたい。
- ・ケアマネが介護保険外のお世話をすることも多いので、ちょっとしたお手伝いは地域の中で何とかやってもらう仕組みを作りたい。それを広める。ゴミ出しなど
- ・区長や民生委員の任期が終わっても、引き続き手伝ってくれる方を増やしたい（当事者意識）。
- ・現場の声を吸い上げる（ヘルプを発信できる）機会を定期的に設けたい。

1回目支援__令和6年10月10日(木曜日)

4 2回目支援に向けて

- ・仲間づくりや合意形成も含めて、グループワークで課題出しを行う。
- ・庁内連携を持ちかけると他部署からは仕事が増えると思われるかもしれないが、住民が主体的になることで行政依存が減り、作業負担が減ることも期待できる。「協働」を目指してほしい。

①高齢者の日常を「改善できる」という意識がなかったため、改善に直結するサービスCの創出など、特定の分野に重きを置いて考えていくか。

②もしくは特定の分野にしばらず、もっと広く庁内連携（買い物支援、外出支援、移動支援、多世代交流etc）でどういう姿を目指すのか深めていき、既存事業の連動を模索するか。

→②を採用。まだ特定の分野に限定はせず、**ゆっくり慎重に課題をしぼり込んで合意形成をしていく方向で進める**ことに。

●2回目現地支援に向けて

●2回目現地支援に向けて

1 1.5次ミーティング前

※1回目支援後に取り組んだこと

①福祉・介護課内で庁内連携の進め方を検討

- ・他部署から現地支援に入ってもらいたい範囲やタイミングを協議

②庁内連携について町長への説明

- ・説明資料作成に着手

③総合事業の多様なサービス（A～D）について、創出したいものを課内で検討

- ・訪問A、訪問B、訪問C、通所C

●2回目現地支援に向けて

2 1.5次ミーティング当日（令和6年11月11日）

※1.5次ミーティングの流れ

- ① 「帳票4：市町村整理シート」を用いて振り返り、1回目支援後の取組を説明
- ② 対話・意見交換
- ③ 2回目支援の内容を検討

○質疑・意見交換

- ・ 総合事業の見直しは、現状ほとんどの市町村で試行錯誤しながら行われている。
 - ・ 町内唯一の多様なサービスである通所型サービスA（介護予防教室）の利用者は、ほとんどが事業対象者。要支援認定の方は数名程度。
- 事業対象者のうちこういう場合は違うところにつなげていくというルールづくり、つなぎ先づくりが必要。

●2回目現地支援に向けて

○質疑・意見交換つづき

- ・この事業は、住民が主体的に動いていく必要がある。住民が動き出して課題が出てきたときに、一緒に連動して活動できる体制づくりとして庁内連携が必要。
- ・どういうサービスが必要なのか分からないというのは、まだ住民と向き合っていないので当然。
- ・「改善」実現後の受け皿を考えると、色んな部署との連携が重要。
- ・中間市にはサービスAもBもCもDも何もない。力を入れてきたのは住民の意識づけと生活支援体制整備事業と一般介護予防事業と認知症施策。介護保険の費用と地域づくりが関係していることを関わるみんなが知らないと難しい。
- ・住民はほとんど諦めている場合が多いので、元気になれる、改善できるという動画を作成し普及啓発を。

●2回目現地支援に向けて

○2回目現地支援の内容について

- ・【市町村向け】地域づくり支援ハンドブック～2023年度版～（株式会社日本能率協会総合研究所）の巻末資料（p.196以降）に掲載されている「総合事業の三角形」と「高齢者の三角形」の図を用いて、グループワークを行う。
- ・グループワークは、それぞれが行っている高齢者の暮らしに関する取組をお互いに知るとともに、上手くいっていないことについて意見交換する機会にする。
協力できそうな話が生まれてくるかもしれない。
- ・庁内連携の重要性について、両アドバイザーから講義をお願いします。

※総合事業の三角形…総合事業のデザインや事業内容の過不足を考えてみよう。

※高齢者の三角形…わがまちにある高齢者向け事業やサービス全体の過不足を考えてみよう。

●2回目現地支援に向けて

3 町長・副町長へ説明（令和6年11月22日、12月3日）

○加速化事業の趣旨などを脇山町長（11月22日）西副町長（12月3日）へ説明

- ・高齢者が自分らしい暮らしを続けていくためには、福祉・産業・就労・生涯学習・スポーツなど生活の選択肢を充実させ、すきまのない支援を行う必要がある
ので、庁内連携で進めていきたい旨を説明。応募動機（手詰まり感など）も。
- ・玄海町は地方交付税の不交付団体であり財源は豊かなので、もし総合事業の上限
を超過しても一般会計からの繰入れ（一般財源の持ち出し）で対応できる余裕は
ある。

→しかし、必ずしも「お金＝健康、お金＝幸せ」とはならないので、**少しずつ地域
まるごとを「意欲＝健康、意欲＝幸せ」に持っていきたい。**

※概ね了承いただき、お2人とも2回目現地支援に参加いただくことになった。

（公務の都合で短時間のみ）

●2回目現地支援に向けて

4 課長会で説明（令和6年12月4日）

○課長会で2回目現地支援への参加を依頼

- ・仕事が増えると思われるかもしれないが、うまくいけば住民主体の取組が進むことで行政依存が減り各課の作業負担が減ることや、各課の施策が目指す効果・成果が高まることも期待できる。
 - ・原ADの青空市場や山内ADの通いの場拠点化など、具体的な事例を交えて説明することで、概ね好意的に話を聴いてもらうことができた（と思う）。
 - ・「総合計画÷高齢者福祉計画！」という表現も活用。
- 町役場の全部署から1名ずつ主査・係長級以上の職員を対象に、2回目現地支援に参加いただくことになった（その週のうちに全部署宛ての依頼文書を発出）。

2回目支援__令和6年12月23日(月曜日)

玄海町役場 大会議室(4階)

9時30分から16時45分まで

●参加者 合計41名

(支援チーム)

原アドバイザー、山内アドバイザー、厚生労働省老健局2名、九州厚生局地域包括ケア推進課2名、佐賀県長寿社会課1名、事務局1名

(玄海町)午前のみ※福祉・介護課以外

福祉・介護課4名、総務課1名、防災安全課1名、企画商工課1名、住民課1名、こども・ほけん課1名、保育所あおば園1名、保育所ふたば園1名、まちづくり課1名、生活環境課1名、農林水産課1名、会計室1名、教育課1名

(介護事業者)午後のみ

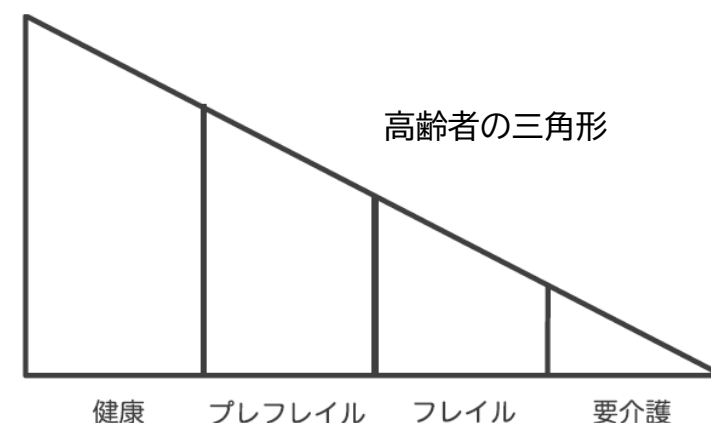
玄海町社会福祉協議会9名、社会福祉法人天寿会2名、医療法人田淵医院1名、株式会社シャンテ3名、佐賀県リハビリテーション3団体協議会2名

2回目支援__令和6年12月23日(月曜日)

1 プログラムの概要

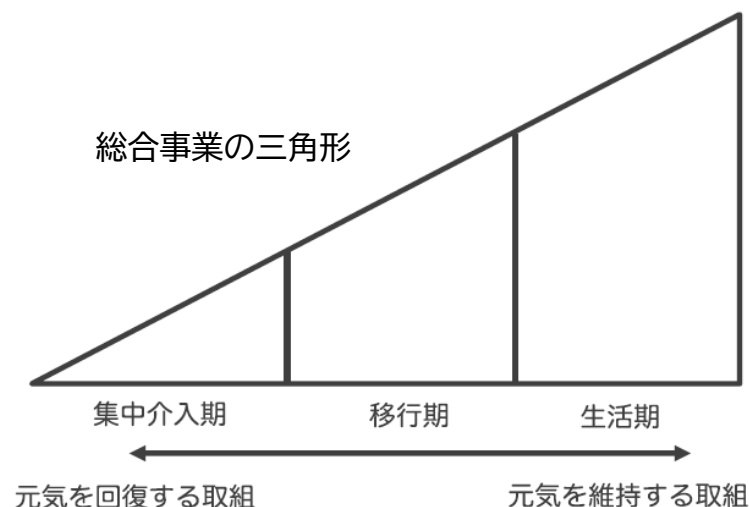
【午前】

- 支援チームの紹介(チームの皆さん)
- 加速化事業の内容説明(九州厚生局)
- 庁内連携の重要性について等(原AD・山内AD)
- グループワーク(全員:高齢者の三角形)



【午後】

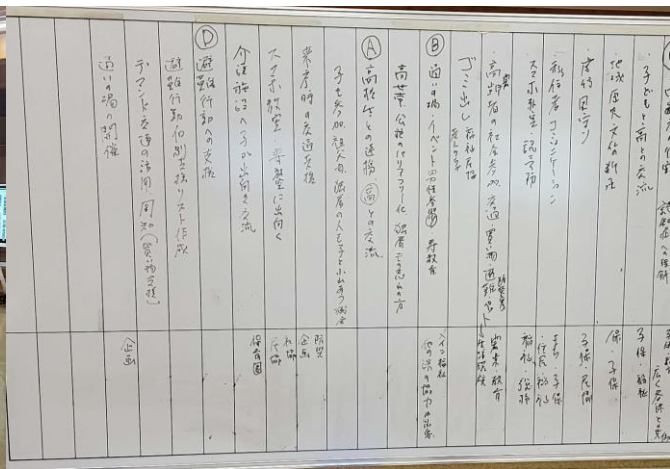
- 支援チームの紹介(チームの皆さん)
- 加速化事業の内容説明(九州厚生局)
- 庁内連携の重要性について等(原AD・山内AD)
- グループワーク(全員:総合事業の三角形)



会場全体(午前)



まとめ(午前)



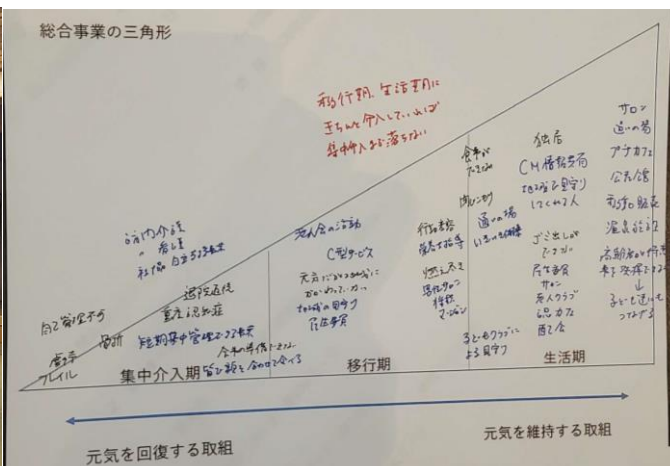
発表(午前)



会場全体(午後)



まとめ(午後)



発表(午後)



2回目支援__令和6年12月23日(月曜日)

2 新たな気づきや認識を深めたこと

- ・ 色々な取組を普及させるためには、広報誌等に載せるだけではなくこちらから声をかけていかないといけない。アプローチを強める必要を感じた。
- ・ 他の課との連携がスムーズに進むと、物事がより楽しくなるように感じた。まずは一步步、少しずつ協力の輪が広がってほしい。
- ・ 連携や協力の大切さをみんなが理解していくことから始まるのかなと思った。
- ・ 他の課の取組を知ることで、連携のあり方を考えるきっかけになった。これまでは考える機会が少なかった。
- ・ 「地域の方々の協力を得ながら」という視点。「地域が協力して」サポートしていく必要性。
- ・ 玄海町に足りないサービスが少し見えてきた。
- ・ インフォーマルサービスを提案するには地域にある資源をまず知ることが大切。ケアプランとして具体化するためにも。
- ・ 今まで考えたこともなかったような視点を知ることができた。
- ・ 他の職種の方と対話することで、とても刺激を受けた。

2回目支援__令和6年12月23日(月曜日)

- ・介護保険サービス以外でもできることは多いと知ることができた。
- ・なかまのなかま協議会におけるこども食堂は、介護予防をメインにやられている。取組の名称にこだわらず介護保険課が主で管轄されているとのことで、まさに**発想の転換**ですごいと思った。
- ・グループワークで色々な状態像の高齢者を思い浮かべながら、課題やその解決策をみんなで考えていくことで、一体感が生まれた。
- ・「なんでポックリ逝けるって決めているんですか？」確かにそうだよなと思った。
- ・地域の皆さんはどういうことをやりたいのか。地域の特色に合わせてやっていく。
- ・行政の会計年度任用職員は年齢制限がない場合が多いので、高齢者に活躍してもらえそう。
- ・高齢者が何を求めているのかが真ん中に来ると思う。**高齢者起点で進める。**
- ・今日ほぼすべての課から職員が参加しているのは、玄海町の強みだと思う。

2回目支援__令和6年12月23日(月曜日)

3 今後取り組んでみたいこと

- ・高齢になっても**筋肉もつくし改善する**というデータに感動した。意欲を引き出しどんどんチャレンジしてもらうために、これらを高齢者の方々にきちんと伝えたい。
- ・高齢者福祉に限らず、町の課題1つ1つを今日のような形でみんなで考えていきたい。課同士のコミュニケーションを取り続けていきたい。
- ・スマホ教室をしているが「自分のためになる、自分ごととして捉えてもらう」ことで興味が湧いてくると思うので、普及させるために留意したい。
- ・事業の優先順位をつけて、取捨選択を行う。
- ・今日の取組を写真を添えて庁内全体に回覧する。参加できなかった職員にも可視化されてよい。
- ・生活支援体制整備事業の協議体の設置。
- ・できることを奪わずに「**自分でしたい**」を**叶えるための支援**を考えて身につけていきたい。
- ・地域ぐるみの仕組みを作りたい。まるごと・ごちゃまぜの精神で。
- ・社協にできることを再認識できたので、これまでの取組をもう少し見直していきたい。
- ・アドバイザーさんの講義で庁内連携の具体例をお聞きできたので、参考にしたい。

2回目支援__令和6年12月23日(月曜日)

- ・ 地域への伴走支援として、情報や方法を提案し続けていきたい。
- ・ 実践を続けるのは簡単ではないが、**規範的統合の考えを見失わないようにしたい。**
- ・ 「通いの場＝体操の場」というイメージが強すぎるので、他の活動も提案してみたい。
- ・ 地域にアプローチする際に「行政はこういう課題を抱えている、地域にもこういう課題がある。これに向かって一緒にやっていきませんか？」という**スタンスを忘れないようにしたい。**
- ・ 地域の方々と一緒に資源を見える化する（原ADの資源カード、資源マップなどを参考に）。
- ・ 来年度に介護予防ケアマネジメントの研修会を開催したい。
- ・ 介護事業所のみでの対応では限界があると感じていたところだったので、とても勉強になった。積極的に地域との関わりを持って、情報交換・情報収集して介護事業に取り組みたい。

2回目支援__令和6年12月23日(月曜日)

4 3回目支援に向けて

- ・ いよいよ、地域の方々にも参画してもらう予定。
- ・ これから地域にもアプローチしていくので、行政や介護事業所それぞれが自分たちの役割分担を整理していかなければならない。
- ・ 地域資源を整理するときには地域と一緒に考えないと絶対にできないので、それらを整理するときに地域課題と一緒に考える。
- ・ 足りていないところが地域課題になるのなら、**その課題を住民協働で解決するためのサービスや通いの場の充実・復活なりを整理していく**、ということが今一番やれるしやらないといけないところではないかと思う。
- ・ 何を優先的にやっていくかを少しでも進められたらよい。

●3回目現地支援に向けて

●3回目現地支援に向けて

1 2.5次ミーティング前

※2回目支援後に取り組んだこと

○「帳票5：振り返りシート」の作成。

- ・スマホ教室の担当者（DX推進室）から、通いの場などでの開催も検討したいと後日具体的に反応をもらった。

- ・2回目現地支援に参加できなかった職員も閲覧できるよう、庁内全体に電子閲覧できるシステムを用いて、写真なども添えてフィードバックを行うこととした。

→3回目現地支援終了後に延期。

- ・定期的な対話の場（第1層協議体）の必要性をあらためて課内で共有した。

○取組の優先順位づけ（仮）

①通いの場の充実→②訪問型サービスA・B創出→③サービスC創出

●3回目現地支援に向けて

2 取組の優先順位づけ（仮）

●通いの場でできそうなこと

- 保育園児・小中高生と一緒に活動（地域みんなの祖父母、みんなの孫）
- ビフォーアフター動画や様々な活動風景を撮影し、ケーブルテレビ等で流してPR。
- 体力測定結果をグラフで見える化→モチベーションアップ。

脳トレゲーム(eスポーツ)、麻雀、将棋、カラオケ、スマホ教室(AIオンデマンド交通「のるーと玄海」予約など)、ドローン教室、移動販売(移動スーパーとくし丸・井戸端会議・青空市場)、介護ロボット(歩行アシスト)体験(地域リハビリテーション活動支援事業)、出前講座(介護保険、認知症、その他)、料理教室、野菜の交換



通いの場の充実

●支える側として活躍できそうなこと

介護助手、有償ボランティアなど就労支援、ボランティア連絡協議会の復活、郵便局、ヘルパー以外の領域を広げる。ゴミ出し。ペットの世話。生活援助。軽微な金銭管理、お互い様のお手伝いで補う。シルバー人材センター、老人クラブや食生活改善推進員の高齢化(60代会員ほしい)、災害時避難支援の協力員、地区行事の主役



訪問サービス
A・B創出

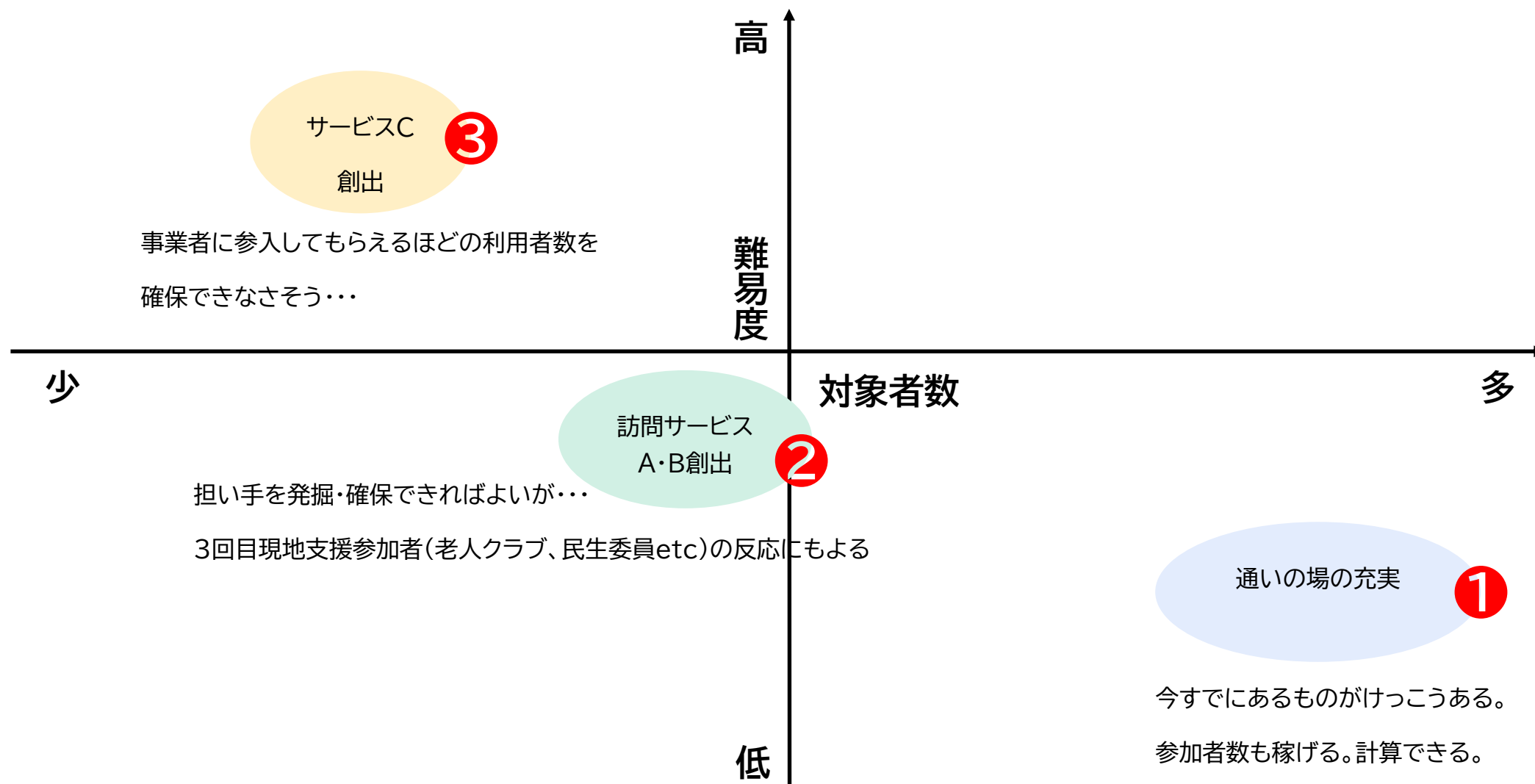
●「改善！」を实践（退院したばかりの人や燃え尽き症候群の人へ）

田淵医院デイケアに通所サービスC？唐津地区地域リハビリテーション広域支援センターに訪問サービスC？



サービスC
創出

●3回目現地支援に向けて



一気に増やすことはできないので、ちょっとがんばればできそうという観点から

●3回目現地支援に向けて

3 2.5次ミーティング当日（令和7年1月21日）

（主な内容）

- ・ 2回目支援の振り返りと取り組んできたことを説明・共有
- ・ 意見交換
- ・ 3回目支援の内容検討

○質疑・意見交換

- ・ 優先順位については今後地域住民と話す中で変わってくるかもしれないので、**焦らず一つ一つ**やっていきましょう。
- ・ 既存の通いの場では、中心スタッフに負担が偏っている状況もあるようだ。
- ・ これらの取組はあくまでも手段なので、どういう目的でこれらを使っていこうとしているのか、その考えを示すことが必要ではないか。ビジョンの共有が住民にとっては1番重要。**役所の事業を広げたり進めるためにやるとなると広がらない。** etc

●3回目現地支援に向けて

○3回目現地支援の内容について

- ・ 2回目支援までを受けてこちらで整理した取組や優先順位を、参加者に投げかけてみる。
- ・ 優先順位1番に設定した「通いの場の充実」に向けて、介護ロボット（歩行アシスト）、出前講座や脳トレゲームその他などを提案してみる（介護ロボットや脳トレゲームは当日に体験も可能）。
- ・ 通いの場に限らず、地域の集まりで体験してもらえる機会がないかどうか意見交換して、地域への働きかけであったりお試し地区の選定なども依頼してみる。 etc
- ・ 住民が参加されるので住民からの意見を大事にしたい。例えば通いの場を充実していくためには何が必要かを投げかけてグループワークを行うなど。
- ・ 各団体に自分たちはどういうことをやって、どういう気持ちでいるのかを出してもらう機会にしたいかがか。横同士がつながるきっかけにもなる。
- ・ 住民の意見を聞いて終わりではなく、最後に玄海町が今後どのように取り組んでいくのかについて、みんなで話をする時間も必要。

●3回目現地支援に向けて

○3回目現地支援の内容について つづき

- ・両アドバイザーからの講義、グループワークや質疑応答の後に、町から参集目的をあらためて説明して、「**決起集会**」みたいにしてはいかがか。決起集会の場が今後そのまま協議体になる可能性もある。
- ・行政の力のみでは限界があるので、地域の方々と一緒に考えてやっていけないといけない、ということを**素直に伝えてよいと思う**。目的・目標はみんな一緒。規範的統合。

→詳細の段取りに不安があったため、町で次第案を作成し、2.75次ミーティングで再度検討することになった。

●3回目現地支援に向けて

4 2.75次ミーティング当日（令和7年2月7日）

○2.5次ミーティング後の検討内容の報告

- ・初めて住民団体に参加してもらうので、色んな想いを話してもらう対話の場としたい（対話ツールとして質問カードを活用）。
- ・「慎重に」という視点を重視して、まずはお互いの団体の状況を知ってもらい、**来年度に向けたつながり**を作ろうと思う。



●3回目現地支援に向けて

○3回目現地支援の内容について（午前）

【講義内容】

- ・地域の課題にみんなで取り組んでいるという内容やお世話役のやりがいについて（原AD）
- ・高齢者だからといって諦める必要はなく、まだまだ必要とされているという点について（山内AD）

【ワークショップ】

- ・質問カードを用いて話しやすくなるのはよいことだと思うが、色んな方向性の話が出て話がまとまらない恐れがある。要望や苦情を言う場になってしまっては残念。
→今回はあまりフリーで意見を出してもらうのではなく、「どんな想いで活動されているんですか？」「活動する中で楽しいなと感じるのはどんな時ですか？」など、**前向きな答えが期待できるような質問カードのみに選択肢を制限**した方がよさそう。
- ・最初に両アドバイザーから講義をしてもらい、それでは次に玄海町の皆さんの活動内容を知りたいので・・・という流れで掘り出していくのが**楽しくなりそう**。

●3回目現地支援に向けて

○3回目現地支援の内容について（午後）

【講義内容】

- ・来年度の協議体設置に向けて、あらためて生活支援体制整備事業について、生活支援コーディネーターについて等（両AD）
- ・事業所にとって具体的にどのようなメリットがあり得るのか、事業所が地域とつながっておく必要性について等（両AD）

【対話・意見交換】

来年度の意向として協議体のような場を作り継続したいというがあるので、**生活支援体制整備事業について**であったり、1回目支援から参加している方もいるので全体を通しての感想であったりをみんなで対話する。

【来年度に向けて】

- ・町として**目指したい姿などをあらためて**話し、共有する。
- ・開催時期や頻度などもみんなで決めていきたい旨など。

※午前午後を通じて、町と参加者が同じ方向を向くことができれば大成功なのではないか。

3回目支援__令和7年2月18日(火曜日)

玄海町福祉施設 介護予防教室

9時30分から16時30分まで

●参加者 合計32名

(支援チーム)

原アドバイザー、山内アドバイザー、厚生労働省老健局2名、九州厚生局地域包括ケア推進課1名、佐賀県長寿社会課1名、事務局1名

(玄海町)

福祉・介護課6名

(地域の団体など)午前のみ

玄海町老人クラブ連合会3名、玄海町民生委員児童委員協議会4名、玄海町シルバー人材センター1名、玄海町介護サービス相談員1名

(介護事業者)午後のみ

玄海町社会福祉協議会5名、社会福祉法人天寿会2名、医療法人田渕医院1名、株式会社シャンテ2名

3回目支援__令和7年2月18日(火曜日)

1 プログラムの概要

【午前】

- 支援チームの紹介(チームの皆さん)
- 加速化事業の内容説明(九州厚生局)
- 中間市の取り組みについて・中間市青空市場について(原AD)
- 住民とともに考える地域(まち)づくりについて(山内AD)
- ワークショップ(全員)

【午後】

- 中間市における生活支援体制整備事業について(原AD)
- 事業所との協働による地域づくりについて(山内AD)
- 対話・意見交換(全員)

発表(午前)



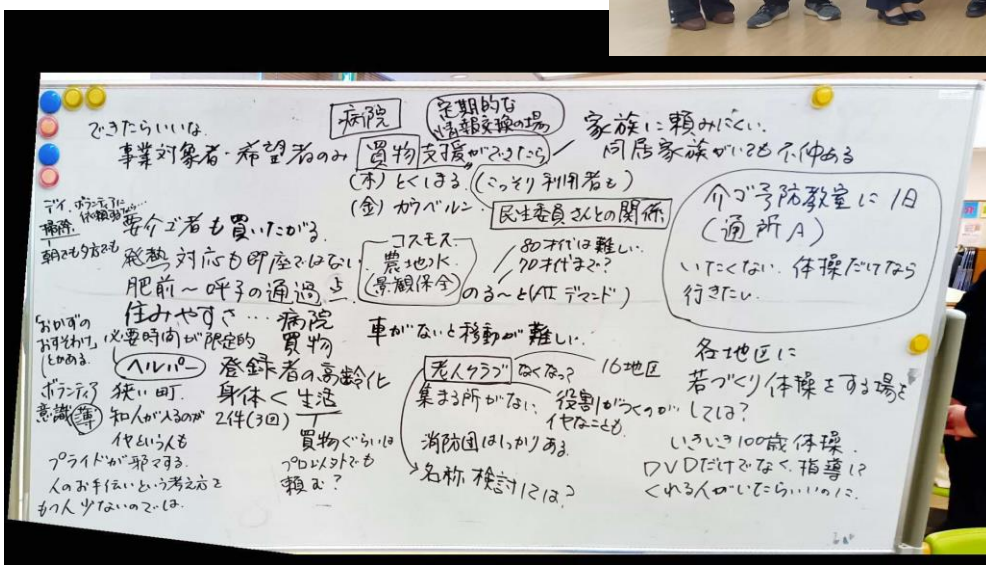
ワークショップ(午前)



集合写真



まとめ(午後)



対話・意見交換(午後)



3回目支援__令和7年2月18日(火曜日)

2 新たな気づきや認識を深めたこと

- ・ 想定どおり住民からの要望もあったが、自分たちもやるから行政もやってほしいという協働を誘うものだった。熱い住民ほど、大きな力になってくれる。
- ・ 事業所に対しては、とにかく一緒にやって欲しいというスタンスでアプローチした方がスムーズにいくと思った。うまくエスコートして協働してほしい。
- ・ 他人との交流の大切さを認識している方が多かった。
- ・ 規範的統合が芽生えつつある雰囲気を感じられた（これを協議体の構築に結びつける）。
- ・ 地域の人が集まれる場所がもっとあればよい。
- ・ よりよい町にしていきたいという思いが強い参加者が多かった。
- ・ まだまだ玄海町でできることもあるのではないかと思えた。
- ・ 3回とも参加するなかで、町にとって何が必要なのだろうかと日々考えることが多くなった。
「なかまのなかま」のようなことが1つずつでもできるようになればいいなと思った。
- ・ 介護助手の派遣がうまくいっており、感謝の気持ちをもらうことが会員のやる気になっている。
- ・ やはり周囲から頼りにされることは嬉しい。

3回目支援__令和7年2月18日(火曜日)

- ・生活支援体制整備事業として**特養に何ができるのか考える**、とてもよい機会になった。
- ・高齢者の困りごとだけに着目せず、子ども、若い人や中間層のニーズに高齢者ができること・役割を担う視点もあってよいのかなと思った。高齢者だけに着目すると資源不足から負担が増すイメージがあり、高齢者の限界をこちらで決めてしまうような気もした。
- ・他の事業所等と協力できそうなところも色々と見えてきた。
- ・多職種で情報を共有できる体制が、高齢者を誰一人取り残さない町にするためには必要。
- ・今日のような場があることで、新しいアイデアが生まれたり今の体制を見つめ直す機会になる。
- ・日頃の業務に追われているが、刺激になった。《小さくとらえず、大きく見る》的な感じです。
- ・午前午後ともに意見が活発に出て、ネガティブな意見も少なく、今後が期待できると思った。
- ・午前の部参加者は時間さえあればもっと話をしたいという感じだった。どのような方向に向かうのか不安もあったが、ワークショップのテーマを少し絞り込むなどの事前準備が功を奏したのかもしれない。「楽しい」時間になった。
- ・**自分たちもがんばるので役場もがんばって！**という言葉は、嬉しく頼もしく感じた。
- ・公民館は各地区にあるが、活用される機会は少ないと思われる。

3回目支援__令和7年2月18日(火曜日)

3 今後（も）取り組んでみたいこと

- ・自分に何ができるのか、考えるとパツと出てこない。こういう話し合いの場が定期的であれば、考えるよい機会になる。皆さんとつながりながら自分にできることを考えたい。
- ・協力したい気持ちはあるので、今日のような場に引き続き参加したい。
- ・特養、小多機、通所リハそれぞれの視点で意見や想いが違ってはいたが、その先にあるもの・見ているものは同じなのだと思った。私が知らないだけで、他事業所で色んな取組をされているのを知ることができ、私たちの事業所でも **できそうなところから考えてみたい** と思った。
- ・玄海町内の介護に関わる事業所全体（職員全員）で、**合同でできるものもあればよいな** とも思った。
- ・特養として、地域の皆さんに知ってもらう取組を進めていくことを考えていたので、今回の検討内容も参考にしながら今後につなげていきたい。
- ・今後もこういう機会があれば積極的に参加し、高齢者やその家族の皆さんに安心して過ごしてもらえるお手伝いをしていきたい。

3回目支援__令和7年2月18日(火曜日)

- ・ 特養の専門性を地域に放出する機会があればいつでも協力したい。
- ・ 地域みんなで何かをやりたい（ふくしまつりの復活など）。
- ・ コロナの影響で休止してしまっている活動などを、**復活させたい。**
（地域のお祭り、盆踊り、保育園・児童館など異世代との交流 etc）
- ・ 専任の生活支援コーディネーターを見つけたい。
- ・ 社会参加を今後もしていきたい。
- ・ 仕事をできるだけ続けていきたい。
- ・ 健康で文化的な生活を続けたい。
- ・ 家の中に閉じこもっていないで外に出て行きたい。
- ・ 最期まで住み慣れた地域で暮らしたい。
- ・ したいことを自分でしたい。

●今後の展望など

●今後の展望など

1 加速化事業を通しての成果 概要

- 停滞気味だった「生活支援体制整備事業」を一步前進させることができた。
- 来年度以降の対話の場（協議体）設置・継続に向けて、土台を固めることができた。規範的統合が芽生えつつある。
- 正解がない中でも、課内で打合せを重ね試行錯誤や自問自答を繰り返すことで、チームの団結力・持久力が向上した。
- 参画してくださった方々に様々な気づきを得てもらい、次の動きにつなげてもらうきっかけとなった。

※多かった気づきの例（各回の振り返りシートより）

- 高齢になっても「改善できる」ということ。これを浸透させたい。
- これまでの自分にはない視点を得られた。自分に何ができるのか考えることが多くなった。
- 地域全体で考え、つくっていききたい。地域まるごと。 etc

●今後の展望など

2 今後の展望案

【1・2年後】

- ・専任の生活支援コーディネーターを配置し、活動量が増加している。
少しずつつながりが強化されている。
- ・協議体の開催が形骸化することなく継続しており、少しずつチームの輪が広がっている。

【3～5年後】

- ・協議体発案のアイデアに基づく取組等が実践されている。
実践を通して地域のつながりがさらに強まっている。
- ・各参加主体の役割分担が明確になり、自走力が高まっている。

【10年後】

- ・様々な取組が進む中でも、規範的統合（考え方の共有）がおろそかにされることなく、何度でも本来の目的に立ち返る姿勢がチームとして大切にされている。
- ・ケアプランに組み込めるような高いレベルで地域資源が整理され、見える化されている。

ご清聴
ありがとうございました



令和6年度地域づくり加速化事業による 玄海町への伴走支援を通して

佐賀県
健康福祉部長寿社会課



佐賀県の概要

総人口※R6年4月1日現在

789,232人

うち65歳以上の高齢者数

249,058人

佐賀県内の高齢化率

31.6%

要介護・要支援認定者数

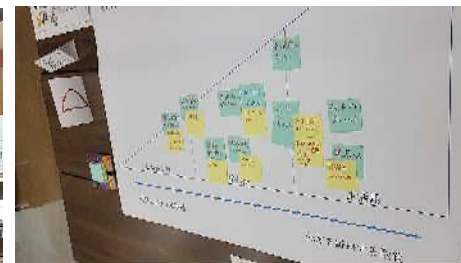
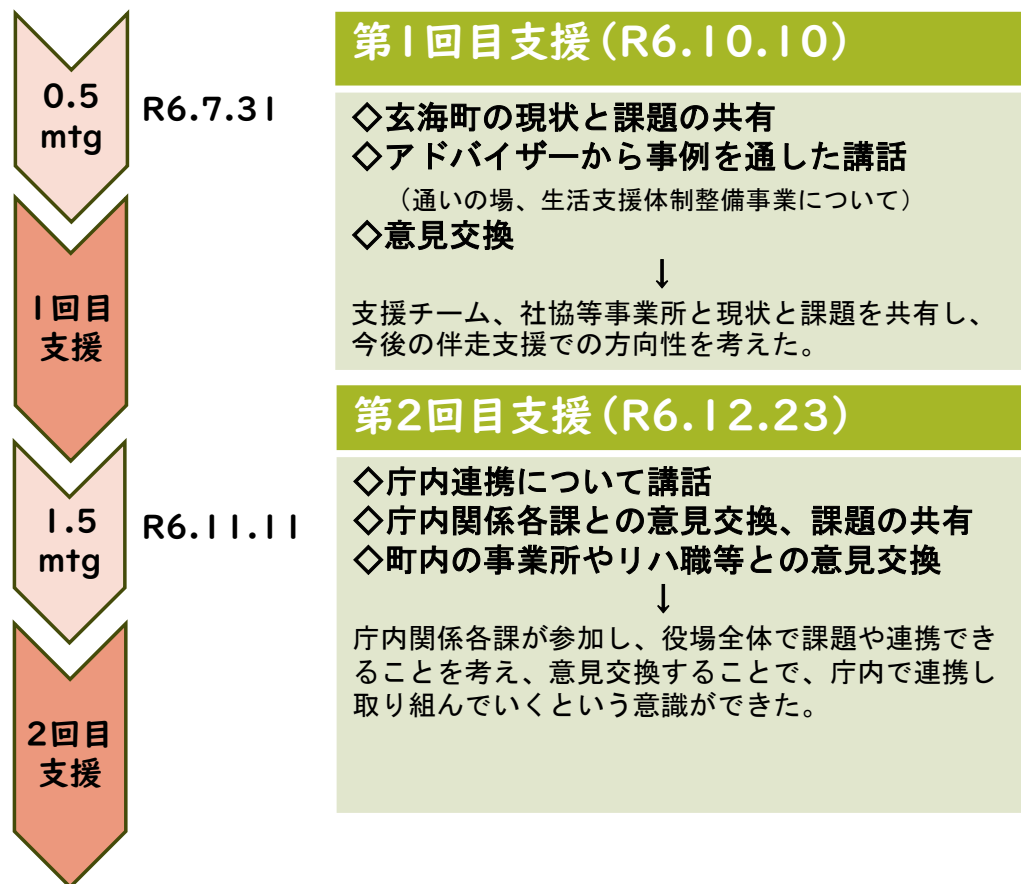
45,835人

市町数

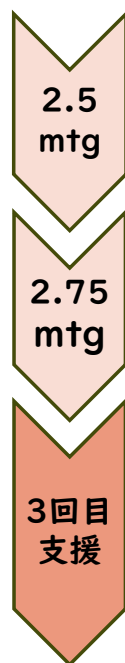
20市町



玄海町支援の流れ



玄海町支援の流れ



2.5
mtg

R7.1.21

2.75
mtg

R7.2.7

3回目
支援

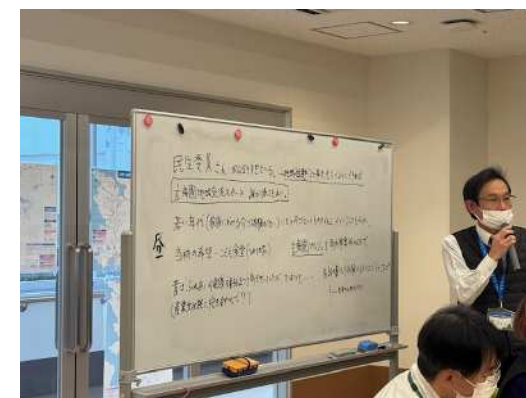
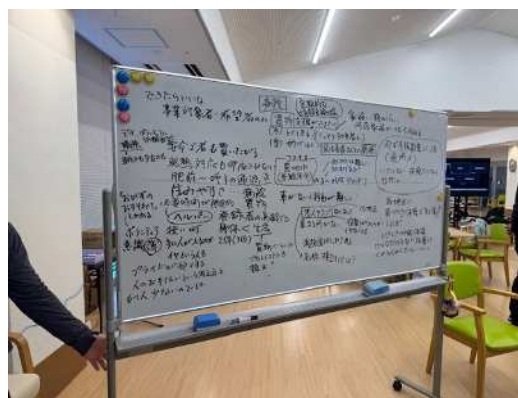
第3回目支援 (R7.2.18)

- ◇生活支援体制整備事業、地域づくりについて講話
- ◇地域の住民との意見交換
(老人クラブ、民生委員等)
- ◇社協や事業所等関係団体との意見交換



どのような町であってほしいか、どんな活動があったらいいのか住民の意見を聞くことで、役場と地域の住民が協働して取り組んでいくという意識ができた。

事業所でできること、事業所同士で連携していけること等を意見交換し、横のつながりを築くことができた。



～まとめ～

今後も行政と住民が協働してよりよい町にできるよう意見交換等を行う協議体を継続して開催する

支援を通しての気づき、今後の支援に向けて

- 玄海町が目指すべき姿や考えを尊重し、ともに考えていくこと
- 玄海町と連携を取り、支援していくこと
- 県として、今回の支援について、県内市町へ横展開を行う
- 市町と顔の見える、相談できる関係性を築いていく
- 市町と意見交換を行い、課題や状況を共有し、ともに考え、継続した支援を行う

ご清聴ありがとうございました



令和6年度地域づくり加速化事業報告会

九州厚生局の支援について

厚生労働省 九州厚生局 地域包括ケア推進課

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

九州厚生局の支援先

■ 厚生局主導型（3自治体）

対象自治体	支援テーマ
福岡県 久留米市	介護予防ケアマネジメント 介護予防・生活支援サービス事業
福岡県田川郡 香春町	介護予防・生活支援サービス事業 生活支援体制整備事業
佐賀県東松浦郡 玄海町	介護予防・生活支援サービス事業 生活支援体制整備事業

令和6年度における九州厚生局の主な役割

1. 「地域づくり加速化事業事務局」との各種調整
2. 「アドバイザー」の決定
3. 「アドバイザー事前打合せ会」の開催
4. アドバイザーとの打合せ
5. 県や市町への支援
6. 「地域づくり加速化事業ブロック別研修」の開催

2. 「アドバイザー」の決定

令和6年度地域づくり加速化事業アドバイザー一覧

氏 名	所 属	役 職	アドバイス可能な分野、事業等									備考
			地域包括ケアシステム関係								地域共生 社会関係	
			介護予防・ 生活支援 サービス事 業	一般介護 予防事業	地域ケア 会議	在宅医 療・介護 連携推進 事業	認知症総 合支援事 業	権利擁護 （成年後 見・介護 相談員	生活支援 体制整備 事業	その他		
イシイ ヨシヤス 石井 義恭	大分県臼杵市地域力創生課	総括課長代理								○※1	○	※1 地域包括ケア全般
イシヤマ ヒロコ 石山 裕子	福岡県大川市福祉事務所	次長兼地域福祉係長	○		○				○			
ハラ マイ 原 舞	なかまのなかま協議会	事務局長							○			
ミヤタ タイチロウ 宮田 太郎	社会医療法人関東会 法人本部 地域福祉推進室	地域福祉推進室長(元大分県国東市第1層SC)							○			
ヤマウチ ツヨシ 山内 強	熊本県大津町介護保険課 地域包括支援センター	就労的活動支援コーディネーター（元九州厚生局地域包括ケア推進課長）	○	○					○	○※7	○	※7 地域包括ケア全般：事業のPDCAサイクル・各事業の連動・地域づくり・介護アシスタント導入等

50音順 敬称略

3. 「アドバイザー事前打合せ会」の開催

令和6年度 地域づくり加速化事業九州厚生局アドバイザー事前打合せ

令和6年7月1日(月)

13:00～(Zoom)

《次第》

1 九州厚生局主導型アドバイザー及び当局職員の紹介・・・【資料1】

2 地域づくり加速化事業(概要)・・・【資料2】

3 支援先自治体・・・【資料3】

(福岡県久留米市、福岡県田川郡香春町、佐賀県東松浦郡玄海町)

4 意見交換等

《参考》

支援パッケージ(地域づくり支援ハンドブック vol.2)について・・・【参考】

掲載先 URL: <https://www.jmar.co.jp/job/public/llg.html>

https://www.jmar.co.jp/2024/05/15/llgr5_10_handbook_summary.pdf (ダイジェスト版)

https://www.jmar.co.jp/2024/05/15/llgr5_10_handbook_supporter.pdf (支援者向け)

https://www.jmar.co.jp/2024/05/15/llgr5_10_handbook_municipality.pdf (市町村向け)

4. アドバイザーとの打合せ

随時、電話やメール、オンライン
でアドバイザーとの情報共有を行
いました。

5. 県や市町への支援

■ 支援に当たり心掛けたこと

1. 「地域づくり」は正解のない取り組み
2. 「地域づくり」は仮説と検証の連続
3. 市町が主役である（決定権は市町にある）
4. 「傾聴」と「共感」の姿勢
5. 地域の関係者とつながる➤地域づくり加速化事業に係る説明
6. その他

6. 「地域づくり加速化事業ブロック別研修」の開催

令和6年度地域づくり加速化事業ブロック別研修(九州厚生局ブロック)

総合事業等の実施にあたっては、市町村はその実施主体として、より良い地域を生み出すためのデザイン、仕組み、地域資源の把握、マネジメント等を行う必要があります。

本研修会では、地域支援事業の目的は「地域づくり」であり、「地域づくり」は、地域の実情に応じて関係機関・関係者・住民とともに進めていく必要があることを、基調講演、事例発表、グループワークを通じてより理解を深めるために開催するものです。

1. 開催日時 令和7年1月29日(水) 13:30～16:00
2. 開催形式 オンライン(Zoom)
3. 対象者 九州厚生局管内の県及び市町村総合事業担当職員等(関係者含む)
4. プログラム

《開会挨拶》 13:30～13:35

九州厚生局健康福祉部長

《基調講演》 13:35～14:25

「総合事業は「地域づくり」！～「通いの場」がカギ！～」

九州厚生局地域包括ケアシステム等アドバイザー 山内 強 氏

《事例発表》 14:25～14:45

①「〈地域づくりとは〉～原点にもどり対話することで見えてきたもの～」

熊本県美里町福祉課 介護・高齢者支援係 山本 将栄 氏

②「本当に必要な整備は何なのか！真剣に向き合った結果みえてきたもの」

鹿児島県南大隅町介護福祉課 介護予防係 松山 哲也 氏

《質疑応答》 14:45～14:55

～休憩～

《グループワーク》 15:00～16:00

グループワーク①

・あなたの考える通いの場の充実とは何か考えてみよう。

グループワーク②

・その充実のために自治体等(担当部署及び担当者)が何をすべきか、何ができるかを考えてみよう。

《閉会》 16:00

7. その他

「令和7年度地域づくり加速化事業」の活用について

今年度と同様に、総合事業等の実施に課題を感じており支援を必要としている市町村に対し、知見を有するアドバイザーを年3回程度派遣し、県との連携のもと伴走的支援を実施しますので、当該事業の活用については是非ともご検討ください。

九州厚生局地域包括ケアシステム等アドバイザー派遣について (九州厚生局独自事業)

九州厚生局では、九州・沖縄管内の地域包括ケア深化推進及び地域共生社会実現に向けた支援を希望する市町村等に対して、それぞれの市町村等の課題に即したアドバイザーの派遣を実施しています。

この機会に研修会や自治会等の講演などに、アドバイザー派遣を活用してみてもは如何でしょうか。

1 アドバイザー派遣事業の流れ

当局HPでご確認ください。

2 アドバイス項目

- (1) 介護予防・日常生活支援事業
- (2) 一般介護予防事業
- (3) 地域ケア会議
- (4) 在宅医療・介護連携推進事業
- (5) 認知症総合支援事業
- (6) 権利擁護（成年後見・介護相談員等）
- (7) 生活支援体制整備事業
- (8) 地域共生社会関係
- (9) その他

3 九州厚生局地域包括ケアシステムアドバイザー一覧

次ページ「参考」のとおり

《参考》九州厚生局地域包括ケアシステム等アドバイザー一覧

九州厚生局地域包括ケアシステム等アドバイザー一覧

令和6年8月現在

令和6年8月現在

アドバイザー氏名	所属	役職	アドバイス可能な分野、事業等									備考
			地域包括ケアシステム関係								地域共生社会関係	
			介護予防・日常生活支援事業	一般介護予防事業	地域ケア会議	在宅医療・介護連携推進事業	認知症総合支援事業	権利擁護（成年後見・介護相談員等）	生活支援体制整備事業	その他		
1 石井 義恭	大分県臼杵市地域力創生課	総括課長代理								○※1	○	※1 地域包括ケア全般
2 石山 裕子	福岡県大川市福祉事務所	次長兼地域福祉係長	○		○				○			
3 橋本 政隆	株式会社地域創生Coデザイン研究所	ポリフォニックパートナー								○※2	○	※2 重層的支援体制整備事業
4 江田 佳子	長崎県佐々町多世代包括支援センター	参事（保健師）			○				○	○※3		※3 地域共生に向けた地域まるごとケアについて
5 大坂 純	東北こども福祉専門学院	副学院長	○	○	○	○		○	○	○※4	○	※4 地域共生社会に向けた地域包括ケア全般
6 岸部 誠	NPO法人 市民後見人の会・ながさき	理事長						○				
7 坂上 陽一	公益社団法人肝属郡医師会 肝属郡医師会立病院	地域医療室長				○						
8 佐藤 信人	宮崎県立看護大学大学院	非常勤講師			○				○	○※5	○	※5 ケアマネジメント
9 猿渡 進平	医療法人静光園白川病院 地域医療連携室	地域医療連携室長					○			○※6		※6 高齢者支援、認知症と共に生きる社会について
10 兜 一浩	福岡市認知症フレンドリーセンター	センター長					○					
11 中垣内 真樹	鹿屋体育大学・スポーツ生命科学系	教授		○								
12 原 舞	なかまのなかま協議会	事務局長							○			
13 宮田 太一郎	社会医療法人関東会 法人本部 地域福祉推進室	地域福祉推進室長 （元大分県国東市第1層SC）							○			
14 山内 強	熊本県大津町介護保険課 地域包括支援センター	就労的活動支援コーディネーター （元九州厚生局地域包括ケア推進課長）	○	○					○	○※7	○	※7 地域包括ケア全般：事業のPDCAサイクル・各事業の連動・地域づくり・介護アシスタント導入等

敬称略 五十音順

ご清聴ありがとうございました

ひと、くらし、みらいのために



厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare